

## 第3回宇陀市総合計画審議会

日時：令和3年11月26日（金）  
14時～

場所：宇陀市役所 大会議室

### 【次第】

1 中期基本計画における施策構成について【資料1】

2 中期基本計画案について【資料2】

3 その他

### 【配布資料】

- 資料1 中期基本計画における施策構成
- 資料2 中期基本計画案

# 中期基本計画における施策構成

基本構想		基本計画	
目指す まちの姿	施策の方向性	施策	
		前期基本計画	中期基本計画
1 健康な まち	1-1 「健康都市“ウェルネスシティ 宇陀市”の実現	1-1-1 健康づくり活動の支援	① 健康づくり活動による健康長寿のまちを実現します
		1-1-2 保健事業の充実	② 感染症予防や対策を充実します
		1-1-3 介護予防の推進	③ 高齢者の介護予防を一体的に推進します
	1-2 みんなの幸せを支える福祉環 境づくり	1-2-1 介護・福祉サービスの充実	① だれもが住み慣れた地域で安心して生きがいを持って暮らせるよう支援します
		1-2-2 障がい者の生活支援	② 面倒見のいい地域福祉を推進します
		1-2-3 困難を抱えた家庭への自立支援	③ 医療費の助成による安心して暮らすを実現します
		1-2-4 地域福祉の環境づくり	
	1-3 結婚・出産・子育て世代への 魅力ある支援の充実	1-3-1 仕事と子育ての両立支援の充実	① 保護者のニーズに応じた子育てしやすい環境づくりを推進します
		1-3-2 子育て支援の充実	② 子どもが健やかに育つよう支援します
		1-3-3 母子保健事業の充実	③ 産前産後の支援・乳幼児への支援を充実します
	1-4 地域医療体制の充実	1-4-1 医療体制の充実	① 医療体制を充実します
		1-4-2 地域医療と福祉の連携の推進	② 地域医療と福祉の連携を推進します
		1-4-3 国民健康保険・福祉医療費助成の推進	
2 暮らし しやすい まち	2-1 みんなが住み良いまちづくり の実現	2-1-1 良好な景観や環境に配慮したまちの形成	① 景観や環境に配慮したまちづくりを推進します
		2-1-2 交通安全関連の整備	② 交通安全対策や防犯、消費者保護を推進します
		2-1-3 防犯体制と消費者保護の強化	
	2-2 移住・定住の促進強化	2-2-1 土地利用の推進	① 土地利用を推進します
		2-2-2 定住につながる環境づくり	② 移住・定住者への総合的な支援を充実します
		2-2-3 U・I・Jターンの促進	
	2-3 公共インフラの持続的な整 備・維持・活用	2-3-1 安全で快適な道路環境の維持・整備	① 安全で快適な道路環境を整備・維持します
		2-3-2 地域公共交通の充実	② ニーズに応じた地域公共交通を推進します
		2-3-3 安心・安全な上下水道の維持・整備	③ 効率的で安心・安全な上下水道の運営を推進します
		2-3-4 地域情報化の推進	④ デジタル化に対応した情報環境の整備を推進します
2-4 災害に備えた安全・安心な暮 らしの実現	2-4-1 災害の未然防止対策の推進	① 自然災害や感染症に強いまちづくりを推進します	
	2-4-2 防災・消防体制の確立	② 防災意識の向上と防災・消防体制を強化します	
3 活力あ るまち	3-1 地域資源の保全及び産業と 連携した活用	3-1-1 文化財の保護・活用	① 歴史・文化資源の整備や保護・活用を推進します
		3-1-2 歴史・文化資源の整備と充実	② 宇陀産の誇れるものを「大和高原宇陀ブランド」として推進します
		3-1-3 宇陀市産物の利用促進	
	3-2 地域の産業の発展を担う次 世代の人材の確保や育成	3-2-1 雇用の創出	① 起業家など多様な人材を育成します
		3-2-2 イノベーションの創出	
	3-3 基幹産業である農林業の再 生・活性化	3-3-1 農業生産基盤の整備と農地の保全	① 地域の特性を活かした農業生産基盤の整備と農地の有効活用を推進します
		3-3-2 農林業経営・生産・流通体制の強化	② 人材の確保と育成など魅力ある農林畜産業経営を強化します
		3-3-3 付加価値の高い農産物づくりの推進	③ 農林畜産物の生産・流通を推進します
		3-3-4 森林の保全と多面的利用の促進	④ 山林を適切に管理します
	3-4 商工業の再生・活性化	3-4-1 商店街の活性化支援	① 商店街の活性化を支援します
		3-4-2 地元事業所活動の促進・支援	② 地元で活動する事業者を支援します
3-4-3 新たな産業の展開		③ 企業誘致を進めるとともに新たな産業の展開を支援します	
3-5 観光戦略の推進	3-5-1 観光基盤の維持・整備	① 魅力ある地域資源を維持し、観光地として整備します	
	3-5-2 地域資源を活かした観光・交流の創出	② 満足度を高める取り組みを推進し、観光客や関係人口を増やします	
	3-5-3 観光誘客の活性化	③ 観光PRや情報発信を強化します	
4 生涯輝 くまち	4-1 人権を大切に共生のまち づくりの実現	4-1-1 人権尊重の社会づくり	① 一人ひとりの人権が尊重されたまちづくりを推進します
		4-1-2 男女共同参画の推進	② あらゆる分野での男女共同参画を推進します
		4-1-3 家庭と仕事・地域活動のバランスがとれた生活への支援	③ 仕事と生活の調和がとれたワーク・ライフ・バランスを推進します
	4-2 子どもたちの教育環境の充実	4-2-1 学校教育内容の充実	① 児童生徒の「よりよく生きる力」を育みます
		4-2-2 学校の教育環境の充実	② 児童生徒の教育環境を整えます
	4-3 多様な学びの場の整備・充実	4-3-1 生涯学習環境の充実	① 生涯学習環境の充実に取り組みます
		4-3-2 地域の教育力の醸成	② 地域社会全体で子どもの育ちを支えます
	4-4 スポーツ・芸術・文化の振興	4-4-1 スポーツ活動の支援・充実	① スポーツ活動の充実に取り組みます
4-4-2 芸術・文化環境の充実		② 芸術・文化の振興を図ります	
5 自然あ るまち	5-1 豊かな自然環境の保全・活用	5-1-1 自然環境の保全・活用	① 豊かで美しい自然環境を保全・活用します
		5-1-2 環境を活かした持続的発展	
	5-2 生活環境の整備・充実	5-2-1 ごみの適正処理の推進	① ごみ処理施設の整備と循環型社会を推進します
		5-2-2 生活衛生環境の向上	② 生活衛生環境の向上を図ります
		5-2-3 火葬場等の整備	
5-3 公園・緑地の整備・活用	5-3-1 公園・緑地の維持・管理	① 快適に利用できる公園・緑地空間を提供します	
	5-3-2 新たな公園・緑地空間の整備		
6 地域を 活かす まち	6-1 市民と行政の協働のまちづく り	6-1-1 積極的な情報発信	① 情報発信の充実を図ります
		6-1-2 市民の協働と参画の推進	② 市民協働のまちづくりを推進します
	6-2 健全な行政運営の推進	6-2-1 行政サービスの向上	① 分かりやすく丁寧な行政サービスを提供します
		6-2-2 効率的な業務運営体制の構築	② 新たな時代に対応できる行政運営を行います
		6-2-3 健全な財政運営	③ 持続可能な財政運営を行います
	6-3 広域行政の推進	6-3-1 広域行政の推進	① 広域行政を推進します
	6-4 地域力の再生・強化	6-4-1 地域力の向上・強化	
		6-4-2 市民活動の支援	① 市民のまちづくり活動を支援します

第 2 次宇陀市総合計画  
中期基本計画

(案)

令和 3 年 11 月

宇陀市

# 第2次 宇陀市総合計画 中期基本計画

## 第1編 中期基本計画の策定にあたって

---

第1章 中期基本計画策定の趣旨	3
第2章 計画の構成と期間	3
第3章 計画の進行管理	5
第4章 SDGsの考え方の導入	7
第5章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化	8
第6章 まちづくりの課題	10

## 第2編 基本構想

---

第1章 宇陀市の基本理念と将来像	20
第2章 将来像の実現に向けた目指すまちの姿	21
第3章 人口ビジョン	24

## 第3編 基本計画

---

第1章 施策体系	31
第2章 施策と持続可能な開発目標 (SDGs) との関係	35
第3章 重点プロジェクト	39

## 目指すまちの姿

---

### 目指すまちの姿1 健幸なまち

- 1-1 「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”の実現」……………42
- 1-2 みんなの幸せを支える福祉環境づくり……………44
- 1-3 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実……………47
- 1-4 地域医療体制の充実……………50

### 目指すまちの姿2 暮らしやすいまち

- 2-1 みんなが住み良いまちづくりの実現……………53
- 2-2 移住・定住の促進強化……………55
- 2-3 公共インフラの持続的な整備・維持・活用……………57
- 2-4 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現……………60

### 目指すまちの姿3 活力あるまち

- 3-1 地域資源の保全及び産業と連携した活用……………64
- 3-2 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成……………66
- 3-3 基幹産業である農林業の再生・活性化……………68
- 3-4 商工業の再生・活性化……………70
- 3-5 観光戦略の推進……………72

### 目指すまちの姿4 生涯輝くまち

- 4-1 人権を大切に共生のまちづくりの実現……………75
- 4-2 子どもたちの教育環境の充実……………77
- 4-3 多様な学びの場の整備・充実……………80
- 4-4 スポーツ・芸術・文化の振興……………82

### 目指すまちの姿5 自然豊かなまち

- 5-1 豊かな自然環境の保全・活用……………86
- 5-2 生活環境の整備・充実……………88
- 5-3 公園・緑地の整備・活用……………90

### 目指すまちの姿6 地域力を発揮するまち

- 6-1 市民と行政の協働のまちづくり……………93
- 6-2 健全な行政運営の推進……………95
- 6-3 広域行政の推進……………98
- 6-4 地域力の再生・強化……………99



# 第 1 編

## 中期基本計画の 策定にあたって



(鳥見山から自然豊かな市街地を臨む)

## 第1章 中期基本計画策定の趣旨

宇陀市は、第2次宇陀市総合計画（2018年度～2029年度）に掲げた将来像である「みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち宇陀市 ～輝く歴史と豊かな文化の息づくまち～」を実現するため、前期基本計画（2018年度～2021年度）に基づいてまちづくりを進めてきました。

総合計画は、宇陀市の行政運営を総合的かつ計画的に推進していくための指針として位置する計画で、将来像や将来像の実現に向けた施策の方向性を定めています。

第2次宇陀市総合計画は、策定から4年が経過し、策定当初に比べて、市民ニーズや社会・経済情勢が変化していることを踏まえながら、前期基本計画での取り組みを検証し、今後も引き続き将来像の実現に向けたまちづくりを進めるため、2022年度から2025年度までの中期基本計画を策定するものです。

## 第2章 計画の構成と期間

総合計画は、基本構想と基本計画で構成します。

### 基本構想

基本構想は、目指す「将来像」やその実現に向けた目標、施策の概要を示すものです。

【計画期間】2018年度～2029年度の12年間

### 基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、「将来像」を実現するための具体的な「施策」を体系的に示すものです。

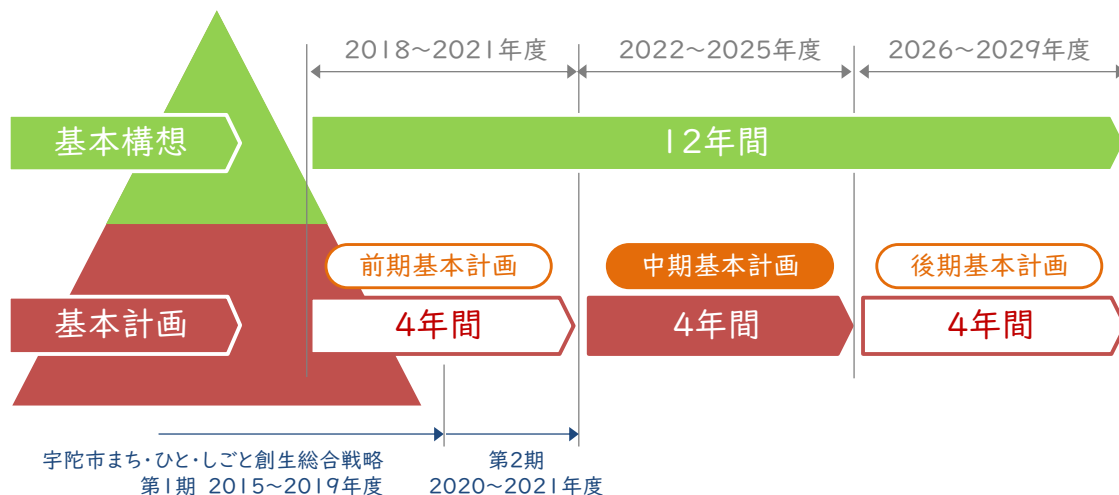
【計画期間】前期／2018年度～2021年度の4年間

中期／2022年度～2025年度の4年間

後期／2026年度～2029年度の4年間







\*総合戦略の施策が総合計画に含まれることから、2020年度に総合戦略を総合計画に一本化しています。

(鳥見山から雲海に包まれた宇陀を臨む)

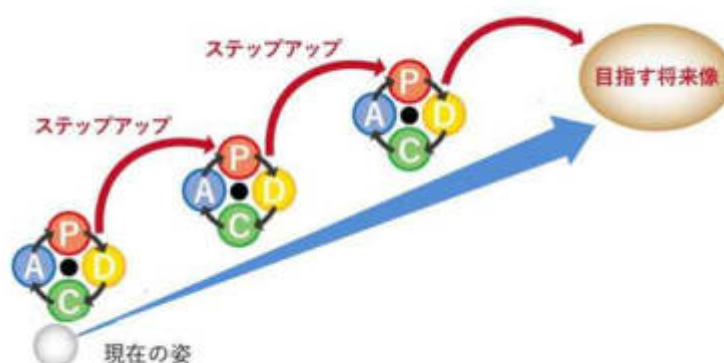


## 第3章 計画の進行管理

### (1) PDCAサイクルの実践

総合計画で取り組む目指すまちの将来像を実現するため、中期基本計画(Plan)に基づいて、事業を実施し(Do)、事業の成果や達成の整理、目標に向けた評価・検証を行い(Check)、必要に応じて事業の改善や見直しにつなげ(Action)、その結果に応じて改めて計画に反映させます(Plan)。

PDCAサイクルを毎年度繰り返し実施することで進捗管理を行い、目標達成に向けたより効率的・効果的な事業構築につなげます。



### (2) 評価の方法

計画の構成に合わせて、基本構想と基本計画のそれぞれについて評価を行います。

基本構想は、「目指すまちの姿」がどの程度実現できているのかについて、新たに基本計画を策定する4年ごとに評価します。

基本計画では、「施策」の進捗状況について毎年評価します。

表 基本構想及び基本計画の評価方法等

	評価項目	評価指標	評価方法
基本構想	「目指すまちの姿」の実現度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目指すまちの姿」に対するアウトカム指標（成果指標）</li> <li>・市民等に対するアンケート結果における満足度や重要度等</li> <li>・「施策」の進捗状況</li> </ul>	<p>左記3つの評価指標を用いて総合的に判断し、I～Vの5段階で評価する。</p> <p>I：目指すまちが十分に実現できている。</p> <p>II：目指すまちが概ね実現できている。</p> <p>III：目指すまちがある程度実現できている。</p> <p>IV：目指すまちがあまり実現できていない。</p> <p>V：目指すまちが全く実現できていない。</p>
基本計画	「施策」の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施策」に基づいて実施されている事業<sup>※</sup>のうち、当初の計画どおり進捗している事業の割合を基に点数化</li> </ul>	<p>各事業の目標値に対する実績値の割合を算出し、点数化する。</p> <p>(宇陀市独自の取組みで評価できる事業の目標値を掲げるものとし、法定受託事務等で行っている事業は除く。)</p> <p>【実績値/目標値により点数化】</p> <p>a：80%以上は4点</p> <p>b：60%以上80%未満は3点</p> <p>c：40%以上60%未満は2点</p> <p>d：20%以上40%未満は1点</p> <p>e：20%未満は0点</p> <p>次に施策の下部事業の平均値を、施策の総合評価とする。</p> <p>A：(3.5点以上) 施策が十分に実現できている。</p> <p>B：(2.5点以上3.5点未満) 施策が概ね実現できている。</p> <p>C：(1.5点以上2.5点未満) 施策がある程度実現できている。</p> <p>D：(0.5点以上1.5点未満) 施策があまり実現できていない。</p> <p>E：(0.5点未満) 施策が全く実現できていない。</p>

## 第4章 SDGsの考え方の導入

SDGs (Sustainable Development Goals)とは 2015 年の国連サミットで採択された 2030 年までの国際目標のことです。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するために、17 分野の目標と、その下に目標と紐づいた 169 ターゲット、232の指標が決められました。

SDGsの理念を踏まえ、宇陀市は、中期基本計画にSDGsの17の目標を関連付けました。皆さんや企業、各機関と連携しながら施策や事業を実施し、目標達成のための取り組みを進めることで、未来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきます。

### <SDGsの17分野の目標(ゴール)>



## 第5章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化

2018年に前期基本計画を策定して以降、宇陀市を取り巻く現状はコロナ禍による新しい社会像や価値観の定着などにより変化しています。また、その変化のスピードは速く、急速に変わりつつあります。

### (1) 人口減少・少子高齢化の進展

国勢調査による日本の総人口は、2010年をピークに減少しており、総人口に占める高齢者の割合は、2020年では〇〇%となっています。

宇陀市の人口は国より早い1995年にピークを迎え、それ以降、減少が続いています。高齢化率も上昇し続け、2020年では〇〇%と、〇〇人に一人は65歳以上になっています。また、14歳以下の人口は減少し続け、2020年には〇〇人と、最も人口の多い1995年に比べて〇〇人(〇〇%)減少しています。

人口の減少や少子化・高齢化の進展により、消費の縮小や労働の減少、まちの活力低下など様々な影響が生じていることから、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。

### (2) 新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化

近年では、日本人の豊かさに関する価値観は変化し、「物質的豊かさ」よりも「心の豊かさ」が求められるようになってきました。また、働き方においては、女性の社会進出やワーク・ライフ・バランスの考え方が浸透し、新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機にテレワークや在宅勤務が広まったことで、新たな働き方が志向されるようになりつつあります。

こうした状況の下、都市部での便利な暮らしではなく、地域の魅力を感じられる郊外での暮らしへの関心が高まる等、価値観の多様化に伴い人々のライフスタイルも変化しています。

### (3) 安全・安心な暮らしに対する脅威の高まり

近年では、異常気象の影響による集中豪雨や台風の大型化、土砂災害や水害が頻発しています。また、今後東南海・南海地震の発生も予想され、大規模災害の罹災リスクが高まっています。そのほかにも、新型コロナウイルス感染症が世界的規模のパンデミックとなり、様々な社会的・経済的な影響を引き起こしています。

自然災害による市民生活への甚大な被害や新型コロナウイルス感染症による社会経済活動への影響等、安全・安心な暮らしに対する脅威が増えています。

#### (4) 環境と共存する持続可能な社会の構築

温室効果ガスの排出やマイクロプラスチックによる海洋汚染などをはじめとした環境負荷の増大や生態系の破壊など、地球規模での環境問題が深刻化しています。こうした中で、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から適量生産、適量消費そして廃棄物の削減や再資源化等を通じた循環型社会への転換、再生可能エネルギーの活用など、自然と共生する社会の構築に向けた取り組みが指向されています。

また、こうした状況も踏まえつつ、活力ある地域づくりを目指して SDGs（持続可能な開発目標）と地方創生の考え方を連携させ、地方自治体におけるまちづくりでも「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた取り組みが様々な分野で展開されています。

#### (5) 先端技術の導入と推進

情報・通信技術は大きく進展し、SNS 等を通じた情報発信やショッピング、バンキング等の消費活動におけるキャッシュレス化の推進など、人々のくらしや社会経済の仕組みに急速に浸透し、大きな影響を及ぼしています。こうした利便性の一方で、インターネット犯罪やプライバシーの侵害、個人情報漏えいなどが社会問題となり、情報セキュリティの強化が課題となっています。

また、IoT や AI 技術をはじめ、自動化技術が進化しているほか、ビッグデータと呼ばれる大量のデジタルデータの生成・収集・蓄積・分析が可能となり、生活のあらゆる場面での活用が図られる等、新しい概念や技術の実用化が進められています。

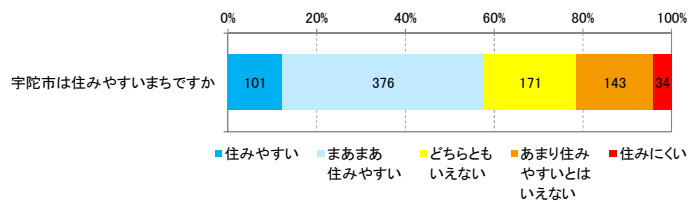
## 第6章 まちづくりの課題

市民の方々の宇陀市についての印象・イメージ等の意識やこれまでのまちづくりに対する評価、これからのまちづくりに対する意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

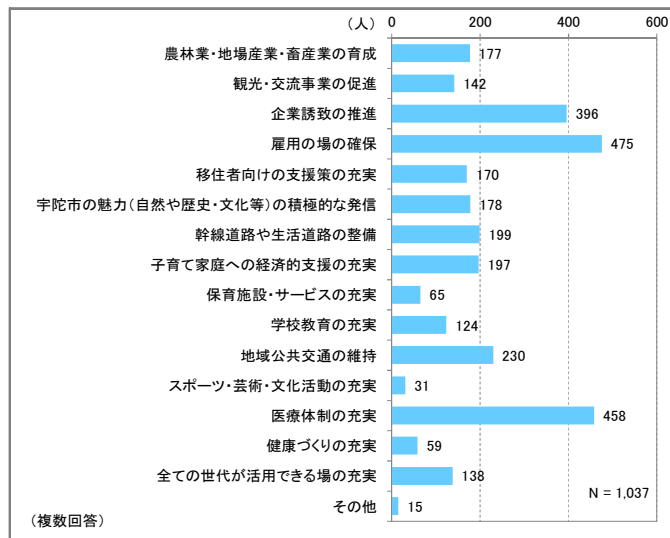
その結果、全体の約6割が「住みやすい」「まあまあ住みやすい」と回答しています。一方で、「商工業の振興」や「農林畜産業の振興」、「土地の有効活用」、「働く場所」の満足度が低い結果が出ています。

また、これから必要な取り組みとして、「雇用の場の確保」や「医療体制の充実」、「企業誘致の推進」、「空き家の有効活用」と回答された方が多かったです。

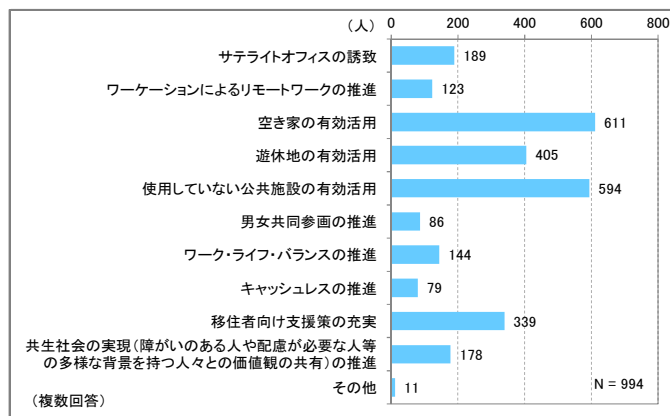
【宇陀市の住みやすさに対する印象】



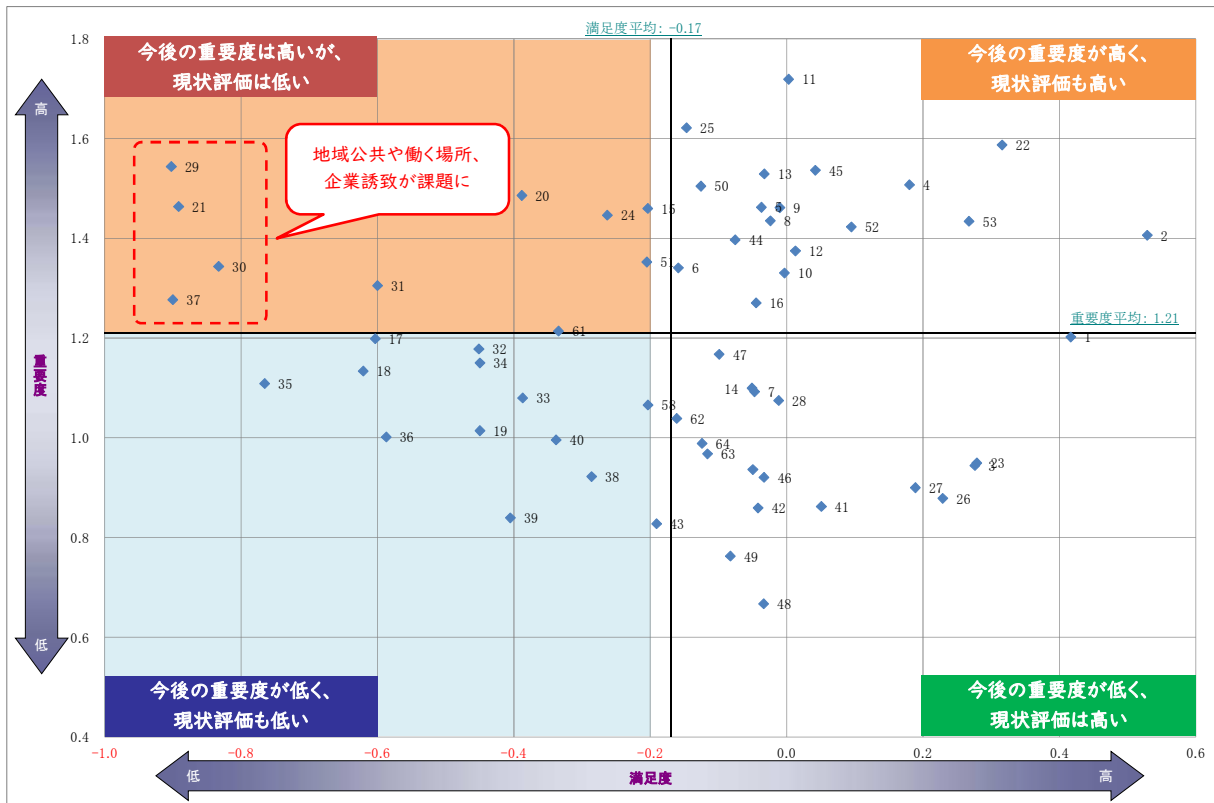
【人口減少・地域活性化対策として必要な取り組みについて】



【ライフスタイルの多様化に対応した取り組みとして重要と思われるもの】



【前期基本計画の施策の満足度・重要度】



施策
1 健康づくりのためのイベント等の開催や検(健)診の受診奨励
2 予防接種の啓発や接種奨励
3 いきいき百歳体操など、介護予防対策
4 介護・福祉サービス
5 障がいのある人への生活支援
6 困難を抱えた家庭への相談や生活支援
7 福祉に携わる団体等とのネットワークづくり
8 保育サービスなど、仕事と子育ての両立支援
9 子育て支援の充実
10 母子保健事業の充実
11 市立病院や診療所等の地域医療の充実
12 地域医療と福祉の連携(宇陀けあネット)の充実
13 子どもや高齢者等に対する福祉医療の充実
14 景観や環境に配慮したまちづくり
15 交通事故の未然防止のための整備や啓発
16 地域防犯への取組みや消費者問題に対する相談窓口の設置
17 計画的な土地利用に配慮したまちづくり
18 空き家の活用など、定住支援
19 U・I・Jターナー者への支援
20 安全で快適な道路環境
21 市内を移動しやすい地域公共交通
22 水の安定供給のための水道施設の維持
23 「うだちゃん」など、情報通信技術を活用した情報発信
24 耐震診断や耐震改修の補助など、災害の未然防止対策
25 災害時における円滑な避難・防災活動
26 文化財・伝統芸能・祭り・行事等の保護・活用
27 史跡や重要伝統的建造物群保存地区の歴史的まちなみ等の整備
28 市内で生産された特産品や名産品の利用
29 宇陀市で働ける場所づくりの支援
30 新たな切り口や視点からのビジネスの創出
31 農道の整備や鳥獣害対策・耕作放棄地解消に向けた取組み

施策
32 農産物の生産から加工販売、木材・間伐材の利用促進
33 付加価値のある農産物の栽培や食品のブランド化
34 森林の保全と宇陀市産木材の活用
35 商店街の活性化支援
36 商品開発など、事業所への支援
37 企業誘致による新たな産業の展開
38 案内看板の設置や登山道の整備
39 観光資源を活かした周遊・滞在型観光、スポーツツーリズムの推進
40 観光誘客に向けたホームページやSNSを活用した情報発信
41 人権について学ぶ機会の提供
42 男女共同参画の推進
43 市内事業者へのワーク・ライフ・バランスの啓発
44 プログラミング教育など、学校教育の充実
45 安心して学ぶ環境の整備
46 榛原総合センターなど、生涯学習施設の整備と講座等の開催
47 学校、家庭、地域が一体となった教育力の醸成
48 スポーツ施設等の計画的な整備と各種スポーツ大会の開催
49 芸術・文化活動による地域の活性化
50 ごみゼロ美化運動や不法投棄防止の取組み
51 里山など、自然環境の保全
52 ごみの減量化に向けたリサイクルの推進
53 し尿処理など、生活衛生環境の向上
54 市営畜場等の整備・運営
55 公園の計画的な維持
56 公園緑地空間の整備
57 積極的な情報共有
58 自治会やまちづくり協議会等が抱える地域課題に対する行政の参画
59 健全な財政運営
60 効率的な業務運営体制
61 ICTを活用した取組み
62 周辺自治体との連携・交流の推進
63 自治会やまちづくり協議会との協働や支援を通じた地域力の向上・強化
64 市民活動の支援





【これからのまちづくりに関するワークショップの開催】

# 20年後の 宇陀市に向けて



市役所若手職員と子育て中の方をそれぞれ集められ行われたワークショップと座談会。  
ワークショップでは20年後の宇陀市に向けて  
「残したいこと・継続したいこと」「困っていること」「変えたほうが良いこと」を  
個々て書き出し、テーブルごとに話しながら想像を膨らませていきました。  
市長との座談会では、ワークショップ内容のまとめや普段の考えを話す場となりました。

【10/25 開催 若手職員ワークショップでの意見】



## 20年後の宇陀市に向けて

宇陀市 WS「私たちが考えるこれからの宇陀市」  
2021.10.25 9:30～11:40 @ 宇陀市庁舎

### 続けたいこと／残したいこと

- 学校  豊かな自然／環境／緑  ゆったりした時間
- 公園が多い  名所／文化財／歴史建築物（宝生寺など）  うだキャン
- いなか（ちょうどよい／生活に困らない）  空気が  宇陀市広報
- 風景（山に囲まれている／山が近い）  松山地区地区などのまちなみ（好き）
- 山多い（整備はしたい）  林業（もっと推したい）
- 自転車のまちイベント／まちづくり（推したい）
- インスタ映え  治安の良さ  子どもの時から過ごしやすい

### 課題／困っていること

- 飲食店／外食  いなか  本屋・図書館がない
- スーパー（サンク（ここになかった）／プラカ/A コープ／）
- 買い物づらい（コストコ欲しい）  過ごせる場所／遊び場が少ない
- 子供が屋内で遊べる場所  商業施設が少ない（アニマルパークしかない）
- チェーン店がない（遊びたいのに遊べない／価格競争起きない）
- 遊がせまい  地域が広い  人口減少  子どもが少ない  高齢化
- 働く場所  車がないと動けない（地域まる々／買い物直通バス）
- インフラ老朽化（橋やばい）
- 住居：一人暮らし賃貸少なく家賃高い（2K 以上しかない）
- 施設管理が多い（合併前のものが残っている）
- 自転車／バイク危ない（山道たいへん／自転車道）
- ケーブルテレビ（地デジがきていない）  都市ガスが通っていない

### チャレンジするといいいこと／変えた方がよいこと

- 子育てしやすい環境  高齢者に優しい暮らし（減ることはない）
- SNS 活用（宇陀市公式 Instagram・Facebook・Twitter）（若者へ）
- 働く場所をつくる／増やす
- 長所を持つ（宇陀市といえば「これ」というものがない）  
（蕎麦おかしーインバクトはあるおいしいかは不明）
- 個性的なお店  アート（山上公園活用／まちなかにあるとよい）
- 若い人向け観光事業スポット  
（山上公園／インスタ映え／行くのが大変＝ルート開発）
- 子育て世代の定住促進  
（住む土地が少ないので入ってきやすくない／子育てに力を入れて全国ニュースに（明石市等）／  
実家に戻る人ばかりで新記者が少ない？）
- プロスポーツチーム本拠地（運動場を整備）
- 合宿の町（体育施設多／宿泊施設）  建物のリノベーション（補助）
- 大学・専門学校（土地があるのでキャンパス誘致）
- テレワーク施設をつくる／運動緩和（今もあるからがんばる（さ来年））
- ショッピングモールほしい  空き地など有効活用
- 目標の見える化（現状がアバウト）
- 市民への分かりやすい浸透（目に見えるように）

【11/5 開催 住民(子育て世代)ワークショップでの意見】



## 20年後の宇陀市に向けて

宇陀市 WS「私たちが考えるこれからの宇陀市」  
2021.11.5 9:40-12:00 @宇陀市役所

### 続けたいこと/残したいこと

- 人 豊かな自然/風景 田舎度合 街並み 歴史 近鉄の駅
- 有機野菜を含めた農業事業 林業や農業の生産 稲作 越前
- 図書館(本屋) 子育て支援センター すくすく教室 見守り
- 伝統の行事/仕事 地域の祭事 市役所と市民の距離感が近い
- お節介な人間関係 人との繋がり(近所)

### 課題/困っていること

- 遊具増やしてほしい 人とのつながり 人口減少 書店がない
- インターネット(テレビ含む)料金高い 水道料金高い
- 市民税金が高すぎる(水道も)→大阪の5倍 高い物
- お店が少ない(ショッピングできる所) 商業施設がない 荒れた土地
- 子供の用品店が少ない 病児保育 高度医療を受けられる病院が遠い
- 病院/子育てのための病院→買い物まで市外ですます デイサービスもない
- 小児科の常勤医師不足・小児科少ない→入院させてほしい 村がなくなる
- 標準中学校への車での行き方 学校の送迎が遠すぎる 送迎が大変
- 子供の移動手段 公共交通→バス高い→子育てにお金がすごくかかる
- バスに乗れない子もいる(明日香まで) バスの運行減→移動が不便
- 子供が少ない 教育費高い 学校が遠い 習い事が少ない
- 子供同士で遊ぶ場が少ない 屋内で遊べる施設がない
- 教育に対する柔軟性に欠ける バスの本数が少ない(20年後不安)
- 献当問題→道が出る!こわい! 公園のトイレ等が美しくない ゴミ

### チャレンジするといいいこと/整えた方がよいこと

- 雇用 教育IT(高齢者) 教育(職) 障がい者の支援
- 高齢者が住みやすい街 温度)障がい児/障がい者の施設
- 医療ケアのある子どもたちの教育(環境が良くなるように) 遊び場
- 誰もが住みやすいまちづくり 子供の教育充実(オンライン)
- こども園・うみやすい・育てやすい環境(働きながら産み育てる)
- 不登校の子のフォロー 図書館と自習室の充実 デイサービス
- 子供用送迎 TAXI 農林業の学校 学校運営(子供の減少)
- 森や田畑を活用した遊び・学び空間 田舎ならではのつながりづくり
- 電気自動車の普及 自動運転の推進 防犯(鍵を開けたまま)
- 空き家土地支援 空き家が多い 空き家対策 子供高齢者支援
- 空き家を活用する(修繕車どうにかする) 移住・空き家バンク
- 宇陀市を活かした支援 宇陀市の魅力を発信したい
- いろいろな人・機関が連携となる Iターン・Uターンへの取り組み
- 橋原駅の活性化(サラリーマン世代増) 自動運転バス
- アニマルパークとの連携(地元との連携) 多様性を認める街づくり
- 全国的なイベント(自転車イベント→宿泊)
- 企業誘致/仕事できる場(増) 駅前活性化/駅を残したい
- みんなの居場所づくり(行政とも地域ともつながる) 山遊び
- オートキャンプ/キャンプ場/スポーツ合宿所→施設を揃えて人を呼ぶ
- 介護しやすいまちづくり/選べる選択が多いまちづくり

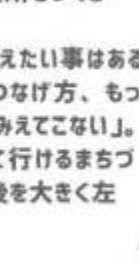
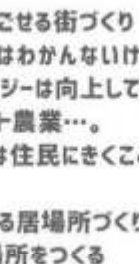
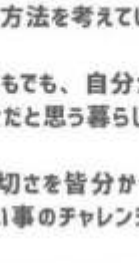
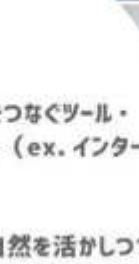
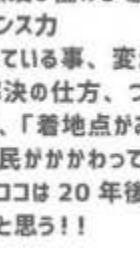
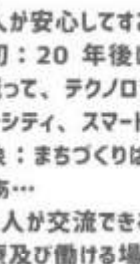
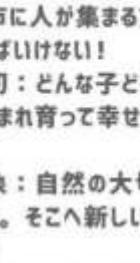
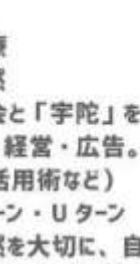
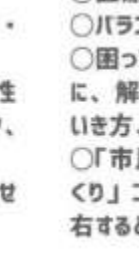
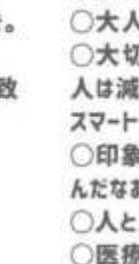
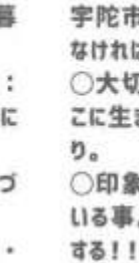
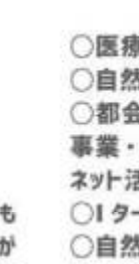
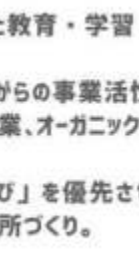
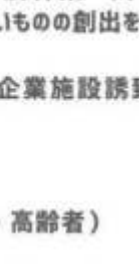
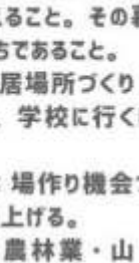
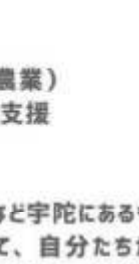
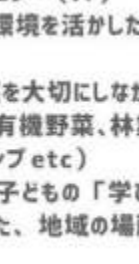
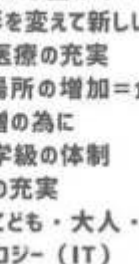
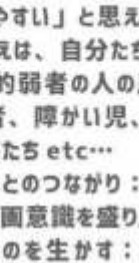
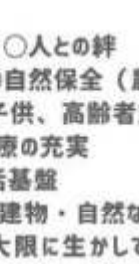
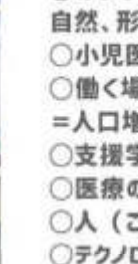
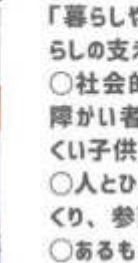
## 市長座談会

2021.10.25&11.05



### 私が大切だと思うこと

- 人との絆
- 自然保全（農業）
- 子供、高齢者支援
- 医療の充実
- 生活基盤
- 人・建物・自然など宇陀にあるものを最大限に生かして、自分たちが「暮らしやすい」と思えること。その暮らしの支えは、自分たちであること。
- 社会的弱者の人の居場所づくり：障がい者、障がい児、学校に行くにくい子供たち etc…
- 人とひとのつながり：場作り機会づくり、参画意識を盛り上げる。
- あるものを生かす：農林業・山・自然、形を変えて新しいものの創出を。
- 小児医療の充実
- 働く場所の増加＝企業施設誘致＝人口増の為に
- 支援学級の体制
- 医療の充実
- 人（子ども・大人・高齢者）
- テクノロジー（IT）
- 自然環境を活かした教育・学習・健康
- 自然を大切にしながらの事業活性（ex.有機野菜、林業、オーガニック、キャンプ etc）
- 子どもの「学び」を優先させた、地域の場所づくり。
- 医療
- 自然
- 都会と「宇陀」をつなぐツール・事業・経営・広告。（ex.インターネット活用術など）
- Iターン・Uターン
- 自然を大切に、自然を活かしつつ、宇陀市に人が集まる方法を考えていかなければいけない！
- 大切：どんな子どもでも、自分がここに生まれ育って幸せだと思う暮らし作り。
- 印象：自然の大切さを皆分かっている事。そこへ新しい事のチャレンジをする！！
- 大人が安心して暮らせる街づくり
- 大切：20年後はわかんないけど、人は減って、テクノロジーは向上してる。スマートシティ、スマート農業…。
- 印象：まちづくりは住民にきくことなんだなあ…
- 人と人が交流できる居場所づくり
- 医療及び働ける場所をつくる
- バランス力
- 困っている事、変えたい事はあるのに、解決の仕方、つなげ方、もっていき方、「着地点がみえてこない」。
- 「市民がかかわって行けるまちづくり」ココは20年後を大きく左右すると思う！！



## 【10/27開催 福祉・介護事業者との座談会】

### 福祉・介護の課題

- 福祉サービスが多様化しており一人ひとりのニーズにあわせたサービスの提供は大変
- 障害者支援についての制度は、支援学校に通っている方等を除くと、知らないことが多い
- 地域との繋がりは非常に重要。地域の人たちの手助けがあった生活ができている
- 障害のある方たちも就労の意識は強い。市内の企業ともしっかりコラボレーションできればよい
- グループのホームの運営では、近隣住民の理解が中々得られないケースがある
- 介護の面でコロナ禍は大きな影響を与えたが、今後はオンラインでやり取りできる環境が必要

## 【11/5開催 スポーツ推進委員との座談会】

### スポーツを通じたまちづくりへの視点

- スポーツや健康をもっと連携するために、様々な団体の連携が重要
- 現状のバラバラに事業を行っている状況を改善する必要がある
- 協議としてのスポーツも重要だが、今後は生涯スポーツも重要になる。
- グランドゴルフ場として、心の森総合福祉公園をもっと活用できればと感じる
- 高齢者が増えている現状を踏まえ、スポーツ推進委員としても高齢者の健康維持を推進するため、普段スポーツをしていない方たちをターゲットにしたいと考えている
- スポーツを通じた居場所づくりが重要と考えている

## 【11/12開催 事業者との座談会】

### 地域の活性化に向けた課題・視点

- 市内の事業では建設業者が減少傾向
- コロナ後は古民家の取引・相談が増加傾向。しかし、古民家は不足傾向
- 天満台では空き家が増えているが、榛原駅からの徒歩圏内は売れている
- 移住してきた人が共働きをする際にパートで働けるところがない
- 宇陀に魅力を感じてもらえていない。
- 市内に宿泊できる施設がない
- 宇陀の涼しい気候は魅力のひとつ
- 民間が運営できる公園があれば魅力的な空間づくりにつながる
- 民間が運営を行うと雇用が創出される

- 宇陀は里山が多いが所有者が細分化されており、活用しづらい状況がある
- 宇陀で林業を頑張っている人たちがいる。境界を明確にする等で活用が進むきっかけになるはず
- 事業をやめてしまう理由としては、後継者がいないことが大きな原因となっている。



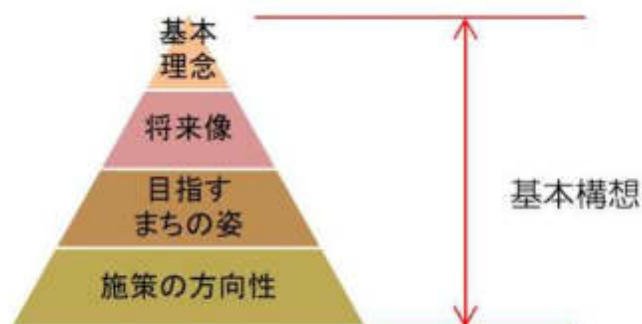


## 第2編

# 基本構想

### 第1章 宇陀市の基本理念と将来像

基本構想で定めた「基本理念」や目指す「将来像」、「将来像」の実現に向けた6つの「目指すまちの姿」、「施策の方向性」を、中期基本計画でも引き続き継承し、これからのまちづくりに取り組んでいきます。



### 市民憲章

- 一、すこやかな心とからだを保ち、だれもが生きがいを見いだせるまちを育てます。
- 一、共に支え合い、互いの尊厳を大切にする、あたたかいまちを創ります。
- 一、人と自然が共生しひびき合う、やすらぎに満ちたまちを守ります。
- 一、歴史や先人の英知に学び、文化と産業の伸展する、活力あるまちを目指します。

### 将来像

みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市  
～輝く歴史と文化の息づくまち～

## 第2章 将来像の実現に向けた目指すまちの姿

宇陀市の将来像を実現するための「目指すまちの姿」について、6つの柱を定めています。

### 目指す まちの姿1

## 健幸なまち

### 施策の 方向性

- ① 「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現
- ② みんなの幸せを支える福祉環境づくり
- ③ 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実
- ④ 地域医療体制の充実

「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現を目指し、地域住民がいいきと健康に生活できる環境整備や、市民一人ひとりがお互いに助け合い、支え合うまちづくりの実現を進める必要があります。

そのため、保健・医療・福祉が連携し、医療環境の整備や母子保健施策、高齢者施策等の充実を図ります。また、「自助」「互助」「共助」「公助」の理念を浸透させ、地域の特性を活かしながら、「健幸」を実現するまちづくりを進めていきます。

### 目指す まちの姿2

## 暮らしやすいまち

### 施策の 方向性

- ① みんなが住み良いまちづくりの実現
- ② 移住・定住の促進強化
- ③ 公共インフラの持続的な整備・維持・活用
- ④ 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現

宇陀市の魅力をより向上させるため、様々な都市基盤について、持続可能な整備・維持・活用を検討・実施することで、誰もが住み良く、快適で、安全・安心なまちづくりを進める必要があります。

そのため、住み良いまちづくりや移住・定住の促進を進めていきます。また、公共交通、道路交通網、上下水道などの公共インフラの整備・維持・活用とともに、災害に備えた整備を進めることで、暮らしやすいまちづくりを推進していきます。

目指す  
まちの姿3

## 活力あるまち

施策の  
方向性

- ① 地域資源の保全及び産業と連携した活用
- ② 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成
- ③ 基幹産業である農林業の再生・活性化
- ④ 商工業の再生・活性化
- ⑤ 観光戦略の推進

豊かな自然や歴史、文化遺産といった地域資源が数多くある中で、中心市街地の活性化や雇用環境の創出、人材の確保が求められています。

そのため、地域資源の保全と活用や、農林畜産業・商工業の再生・活性化に努めることで、活力と個性がある地域産業の創出、持続可能な地域経済の発展を目指します。また、多様化する観光ニーズに対応するため、地域資源のPR活動をはじめとした観光戦略を推進し、関係人口の増加を目指します。

目指す  
まちの姿4

## 生涯輝くまち

施策の  
方向性

- ① 人権を大切にする共生のまちづくりの実現
- ② 子どもたちの教育環境の充実
- ③ 多様な学びの場の整備・充実
- ④ スポーツ・芸術・文化の振興

誰もがお互いの人権を尊重することは重要です。いじめ問題等がなく、性別や障がいの有無にかかわらず、自分らしく生涯を通じて輝き、よろこびや生きがいをもって暮らせることは、宇陀市が目指す将来像の実現に向けた基本となります。

そのため、誰もが学び、働き、活動できる地域づくりを進めるとともに、本市に住む誰もが地域で学習活動やスポーツ・レクリエーション活動等に取り組める文化的環境の整備に努めます。また、地域の特性を活かした教育と文化振興を進めます。

目指す  
まちの姿5

## 自然豊かなまち

施策の  
方向性

- ① 豊かな自然環境の保全・活用
- ② 生活環境の整備・充実
- ③ 公園・緑地の整備・活用

地球温暖化やエネルギーの大量消費など、自然を取り巻く環境問題はうだ市でも例外ではありません。宇陀市の魅力の一つである、豊かな自然や美しい田園風景と調和したまちづくりを維持し、さらに強化していくためには市民一人ひとりが力を合わせて本市の自然環境を守り続けていくための取り組みを進めていく必要があります。

こうした環境問題への対処や宇陀市の魅力の向上を図るため、循環型社会への取組運動等、環境保護を地域づくりに活かしながら、自然と共生した、持続可能で快適なまちを進めます。

目指す  
まちの姿6

## 地域力を発揮するまち

施策の  
方向性

- ① 市民と行政の協働のまちづくり
- ② 健全な行政運営の推進
- ③ 広域行政の推進
- ④ 地域力の再生・強化

地方分権の進展や行政需要が複雑・多様化するなか、市民のニーズを的確に把握することがさらに重要となっています。しかし、厳しい財政状況のなか、行政だけで多様なニーズや高度な課題に対応することは困難であり、地域が一体となって対応することが求められます。

そのため、市民、ボランティア団体等と行政が連携することで、市民が自分たちのまちについて考え、取り組む体制を整備し、地域力を最大限に発揮できるまちづくりを目指します。

## 第3章 人口ビジョン

宇陀市の総人口は、出生者数が死亡者数を下回る「自然動態の減少」、市内への転入者が市外への転出者を下回る「社会動態の減少」により、1995年をピークに減少しています。

年齢別人口では、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）の減少、老年人口（65歳以上）増加しています。国立社会保障・人口問題研究所が2018年に公表した宇陀市の将来推計人口は、全国的な減少よりも速いペースで進んでおり、2030年には22,249人となり、2020年に比べ5,895人減少し、特に生産年齢人口は●●●人、年少人口は●●●人減少すると予測されています。今後、現状のまま何もしない場合には、市民の生活にとって重大な影響を与えられと考えられます。

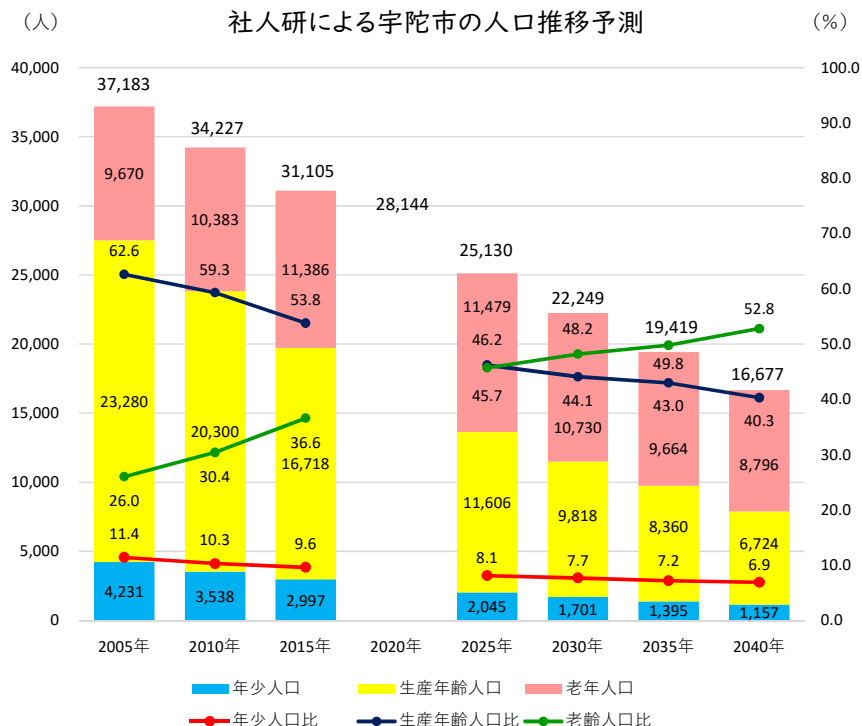
この人口ビジョンは、宇陀市における人口の現状を分析し、中期基本計画で目指す将来像「みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市 ～輝く歴史と豊かな文化の息づくまち～」の実現に向けたまちづくりを進めることを目的としています。

### 1. 人口の現状と分析

#### 人口の推移と将来の見通し

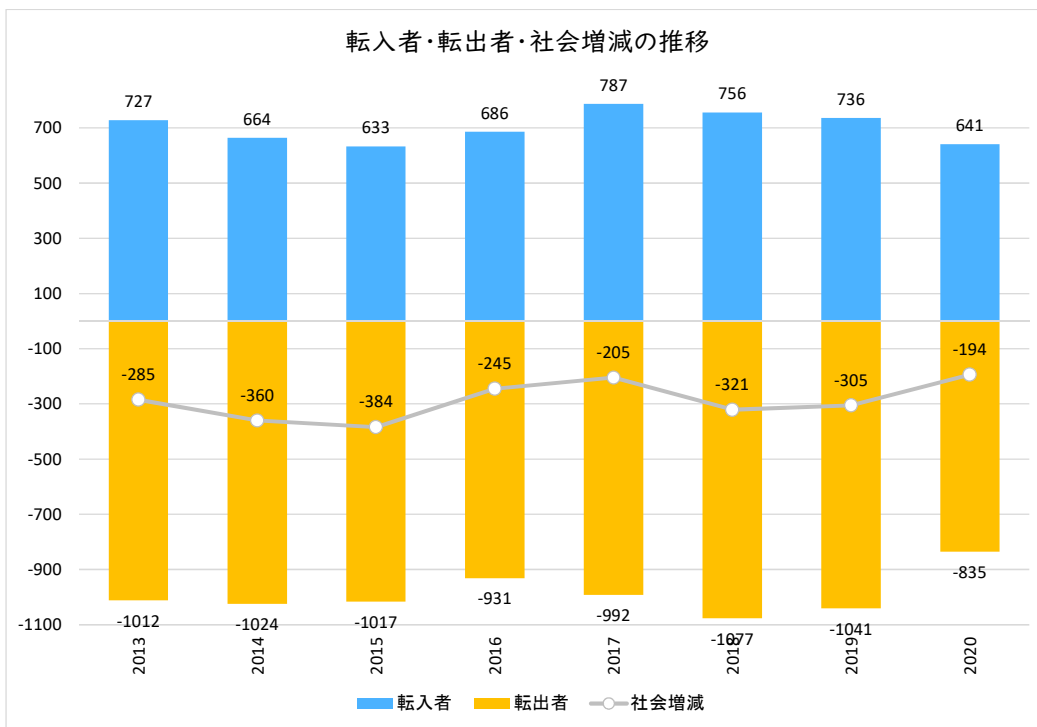
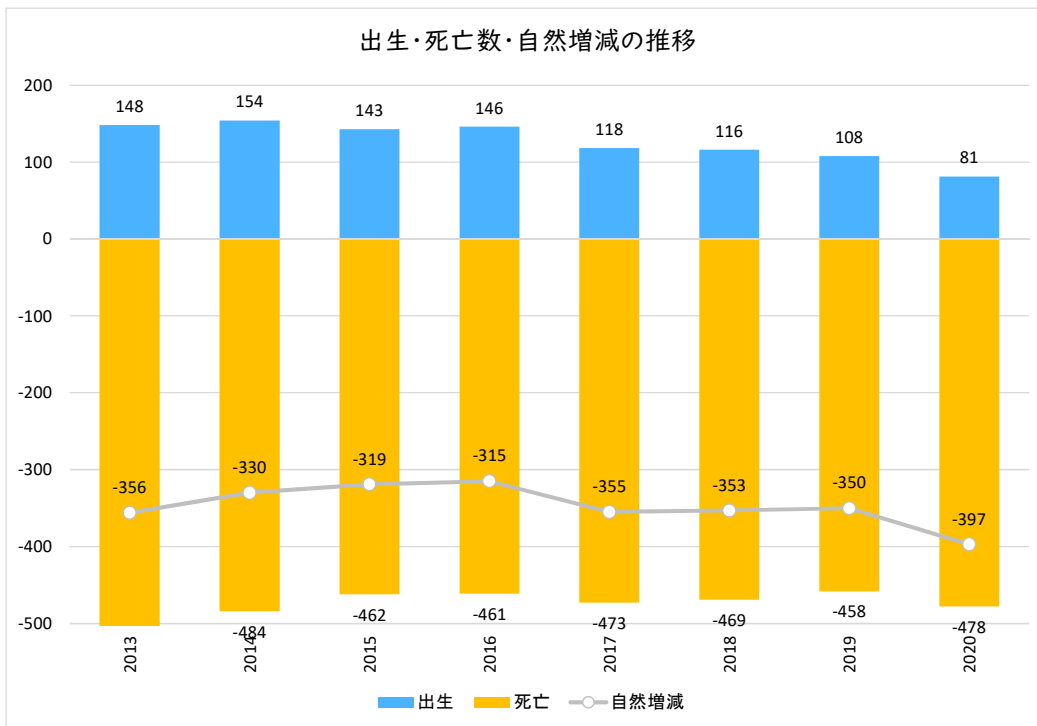
宇陀市の住民基本台帳人口は、合併した2006年1月の38,626人から2021年10月には28,703人になるなど年々減少が続いています。

国立社会保障・人口問題研究所によると、国勢調査の人口では2040年には16,677人になると推計され、年齢構成を見ると年少人口の割合が少なく、老年人口の割合が増えることが予測されています。



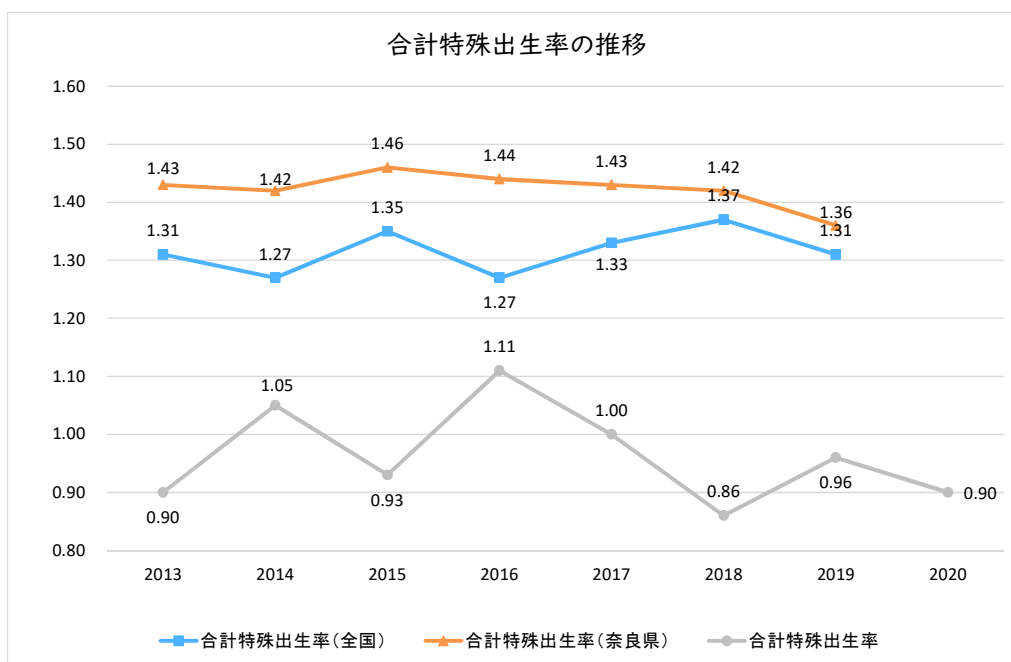
出生・死亡(自然増減)と転入・転出(社会増減)

宇陀市の出生・死亡者数は、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状態が続いています。  
 転入・転出者数は、転出者が転入者を上回る「社会減」の状態が続いています。  
 総人口の推移については、自然動態と社会動態の影響により、人口減少が続いています。



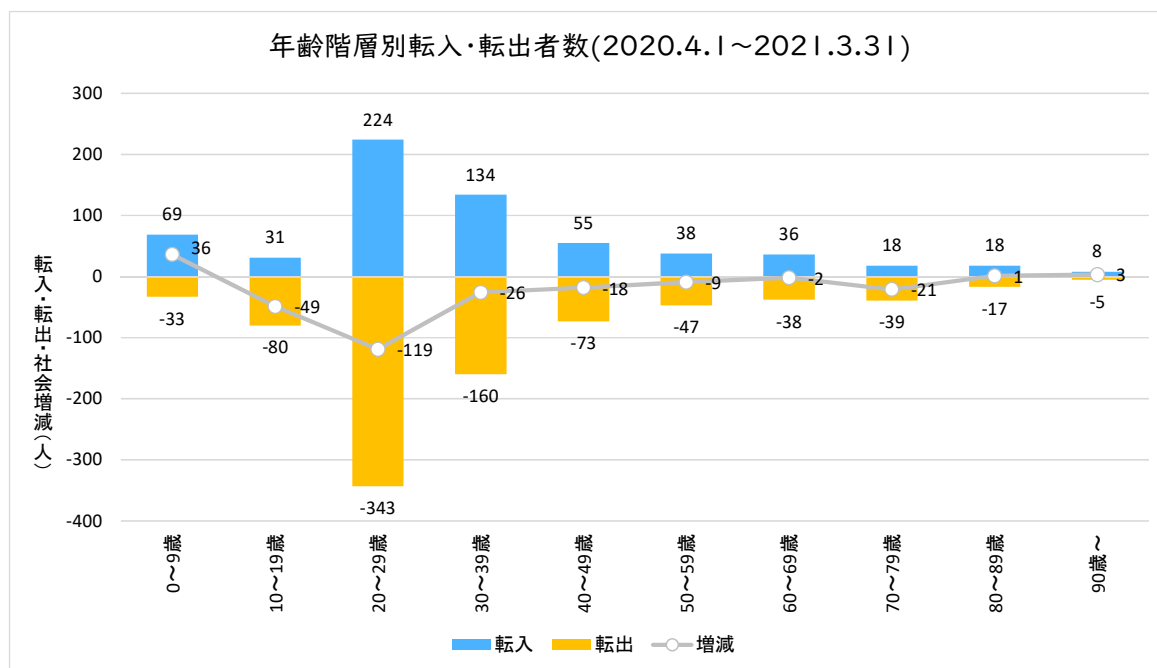
## 自然減の要因

死亡数はほぼ横ばいであるのに対して、出生者数は減少しています。また、合計特殊出生率は、2018年以降1.0を下回る低い水準となっています。これは、奈良県や国の数値を大きく下回っています。このため、自然動態による増減は、自然減が続いています。



## 社会減の要因

2020年度の年齢別人口移動では、若い年代に多くの転入・転出が見られます。これは、就職等に伴う移動が考えられ、10～19歳、20～29歳、30～39歳にかけて特に転出超過となっています。9歳以下等での転入超過は見られるものの、全体では社会減が続いています。



## 2. 将来人口の目標

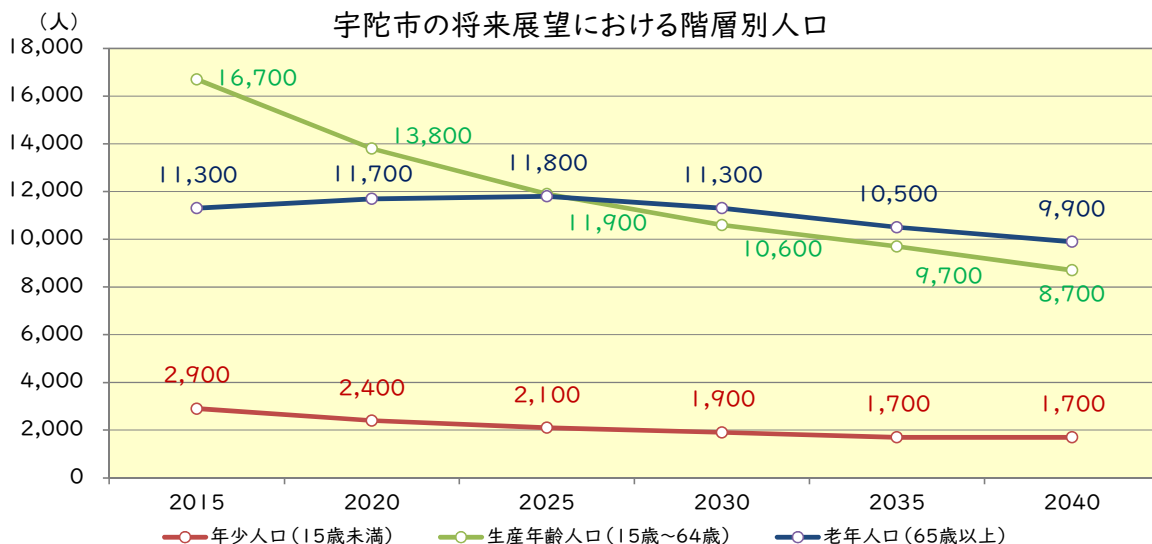
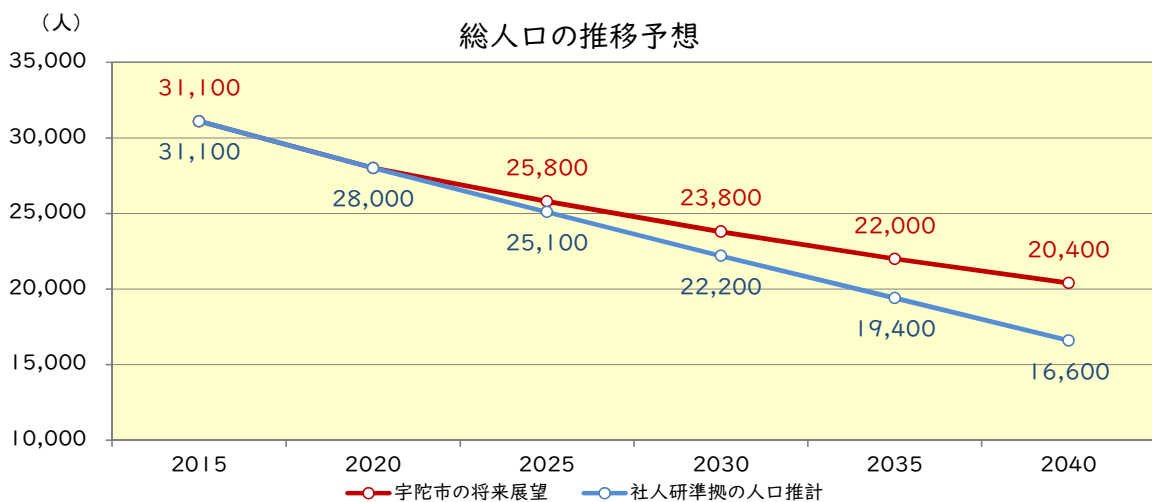
人口減少の進展は、地域の需要低下や労働力人口の減少による経済活動の縮小を引き起こし、雇用が不安定になることで結婚や子育て・出産にも影響が及びます。

こうした負のスパイラルを防ぐために、農林畜産業の振興や事業所活動・企業誘致による地域の活性化、まちの魅力向上の取り組みを通して継続的な好循環を生み出すことで、目指すまちの将来像の実現を目指して、まちづくりを進めていきます。

まちづくりを実施していく中で、各分野の目標値をPDCAサイクルにより見直しながら目標を達成していくことで、出生数の増加や転入・定住者の増加、高齢者の健康寿命の延伸を実現することで、2040年の人口20,000人を目標人口として、事業を実施していきます。

### 将来人口目標(2040年)

# 20,000人









## 第3編

### 基本計画



# 第1章 施策体系



## 基本計画

### 施策

## デジタル化の推進

## カーボンニュートラルによるグリーン社会の実現

- ①健康づくり活動による健康長寿のまちを実現します
- ②感染症予防や対策を充実します
- ③高齢者の介護予防を一体的に推進します

- ①だれもが住み慣れた地域で安心して生きがいを持って暮らせるよう支援します
- ②面倒見のいい地域福祉を推進します
- ③医療費の助成による安心できる暮らしを実現します

- ①保護者のニーズに応じた子育てしやすい環境づくりを推進します
- ②子どもが健やかに育つよう支援します
- ③産前産後の支援・乳幼児への支援を充実します

- ①医療体制を充実します
- ②地域医療と福祉の連携を推進します

- ①景観や環境に配慮したまちづくりを推進します
- ②交通安全対策や防犯、消費者保護を推進します

- ①土地利用を推進します
- ②移住・定住者への総合的な支援を充実します

- ①安全で快適な道路環境を整備・維持します ②ニーズに応じた地域公共交通を推進します
- ③効率的で安心・安全な上下水道の運営を推進します
- ④デジタル化に対応した情報環境の整備を推進します

- ①自然災害や感染症に強い安心して住み続けられるまちづくりを推進します
- ②防災意識の向上と防災・消防体制を強化します

- ①歴史・文化資源の整備や保護・活用を推進します
- ②宇陀産の誇れるものを「大和高原宇陀ブランド」として推進します

- ①起業家など多様な人材を育成します

- ①地域の特性を活かした農業生産基盤の整備と農地の有効活用を推進します
- ②人材の確保と育成など魅力ある農林畜産業経営を強化します
- ③農林畜産物の生産・流通を推進します ④山林を適切に管理します

- ①商店街の活性化を支援します
- ②地元で活動する事業者を支援します
- ③企業誘致を進めるとともに新たな産業の展開を支援します

- ①魅力ある地域資源を維持し、観光地として整備します
- ②満足度を高める取り組みを推進し、観光客や関係人口を増やします
- ③観光PRや情報発信を強化します



## 基本計画

### 施策

#### デジタル化の推進

#### カーボンニュートラルによるグリーン社会の実現

- ①一人ひとりの人権が尊重されたまちづくりを推進します
- ②あらゆる分野での男女共同参画を推進します
- ③仕事と生活の調和がとれたワーク・ライフ・バランスを推進します

- ①児童生徒の「よりよく生きる力」を育みます
- ②児童生徒の教育環境を整えます

- ①生涯学習環境の充実に取り組みます
- ②地域社会全体で子どもの育ちを支えます

- ①スポーツ活動の充実に取り組みます
- ②芸術・文化の振興を図ります

- ①豊かで美しい自然環境を保全・活用します

- ①ごみ処理施設の整備と循環型社会を推進します
- ②生活衛生環境の向上を図ります

- ①快適に利用できる公園・緑地空間を提供します

- ①情報発信の充実に図ります
- ②市民協働のまちづくりを推進します

- ①分かりやすく丁寧な行政サービスを提供します
- ②新たな時代に対応できる行政運営を行います
- ③持続可能な財政運営を行います

- ①広域行政を推進します

- ①市民のまちづくり活動を支援します

## 第2章 施策と持続可能な開発目標(SDGs)との関係

### (1) 政策体系とSDGsとの関係

基本構想		1	2	3	4	5
目指すまちの姿	施策の方向性					
1 健康なまち	1-1 「健康都市“ウェルネスシティ宇陀市”の実現		●	●		
	1-2 みんなの幸せを支える福祉環境づくり	●	●	●	●	
	1-3 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実	●	●	●	●	
	1-4 地域医療体制の充実			●		
2 暮らしやすいまち	2-1 みんなが住み良いまちづくりの実現			●	●	
	2-2 移住・定住の促進強化	●		●	●	
	2-3 公共インフラの持続的な整備・維持・活用			●		
	2-4 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現			●		
3 活力あるまち	3-1 地域資源の保全及び産業と連携した活用					
	3-2 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成					
	3-3 基幹産業である農林業の再生・活性化		●			
	3-4 商工業の再生・活性化	●				
	3-5 観光戦略の推進			●		
4 生涯輝くまち	4-1 人権を大切に共生のまちづくりの実現	●			●	●
	4-2 子どもたちの教育環境の充実	●	●	●	●	●
	4-3 多様な学びの場の整備・充実			●	●	
	4-4 スポーツ・芸術・文化の振興			●	●	
5 豊かな自然まち	5-1 豊かな自然環境の保全・活用					
	5-2 生活環境の整備・充実				●	
	5-3 公園・緑地の整備・活用				●	
6 活躍する地域力を	6-1 市民と行政の協働のまちづくり				●	
	6-2 健全な行政運営の推進					
	6-3 広域行政の推進					
	6-4 地域力の再生・強化				●	



6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
●		●		●	●					●	●
		●								●	
				●	●						●
			●		●					●	●
		●	●		●						●
●			●		●		●	●			
			●		●		●				
		●			●				●		●
	●	●	●	●					●		
		●	●						●		
		●	●			●			●		
		●			●						●
				●						●	
		●			●		●			●	●
					●					●	●
		●			●					●	●
	●				●	●	●		●		
		●			●	●		●	●	●	
		●	●		●	●			●	●	●
					●				●		●
					●						●

(2) SDGsの17のゴールから見た中期基本計画の主な取り組み





### 第3章 成長戦略における重点プロジェクト

重点プロジェクトは、今後 4 年間で将来像の実現を牽引するために、6 つの目指すまちの姿を横断的に関連付け、重点的に取り組んでいくものです。

#### 高原都市 宇陀ではたらく ～産業・観光の振興～

大和高原の玄関口としての駅前整備推進

保全と活用による土地利用の推進

企業誘致の推進

大和高原宇陀ブランドの発信

スマート農業など農業生産基盤の整備推進

ジビエ加工施設の整備推進

地域資源を活かした人材育成

空き家・空き店舗の活用

重要物流道路としての国道165号の整備推進

## 高原都市 宇陀でくらす ～移住定住・子育て支援の充実～

誰一人取り残さない居場所づくりの推進

子育て環境の整備推進

教育環境の充実

地域公共交通の充実

ごみ処理施設の整備推進

## 高原都市 宇陀でつながる ～健幸・安心安全の充実～

市立病院を中心とした地域医療体制の充実

感染症など予防の充実

スポーツ拠点施設の整備推進

## 目指すまちの姿 | 健幸なまち

### “健幸なまち”を実現するための「施策の方向性」

- 1-1 「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現
- 1-2 みんなの幸せを支える福祉環境づくり
- 1-3 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実
- 1-4 地域医療体制の充実

### “健幸なまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方や
健康寿命*	男性:82.45歳 (2015年) 女性:84.80歳 (2015年)	84歳  86歳	【健康寿命の延伸】 市民一人ひとりが健康を維持することで、健康寿命が向上すると考えられます。
1人あたりの国民健康保険の医療費	363,735円/人 (2017年度)	全国平均を下回る 又は 奈良県平均を下回る	【1人あたりの年間医療費の削減】 市民一人ひとりが健康を維持することで、長期の入院や治療が減少し、年間医療費を抑制できると考えられます。
15歳未満人口比率	9.14% (2017年度)	10.0%	【子どもの占める割合の向上】 保健・医療・福祉等の連携・充実や地域の協働によるまちづくりによって、子どもを安心して産み、育てられる環境を整えることで、15歳未満の人口比率が向上すると考えられます。

※健康寿命とは「日常的に介護を必要とせず、健康で自立した生活ができる期間」のことをいいます。  
奈良県では、65歳以降の平均余命から平均要介護期間を差し引いて、次の式により健康寿命(65歳時の平均自立期間)を算出していますが、65歳を加えた数字で表しています。  $\text{健康寿命} = \text{平均余命} - \text{要介護期間(要介護2以上)}$

## 施策の方向性1-1

### 「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現



#### (1) 現状

- ・本市では、高齢化・長寿命化が進む中で、心身ともに健康に、生きがいを感じながら豊かな生活を送ることができるよう、健康づくりや健康寿命を延ばす取組みに力を注いできました。
- ・循環器系の疾患や悪性新生物など、生活習慣病の予防、早期発見や早期治療、糖尿病の重症化予防等について個人の積極的な取組みを推進しています。また特定健診やがん検診、特定保健指導を実施するとともに、効果的な受診勧奨に取り組んでいます。
- ・本市の高齢化率は、2019年(令和元年)40%を超え、2040年(令和22年)まで増加傾向は続き、なかでも後期高齢者の割合が増加すると予測されています。
- ・介護・介助が必要になった要因は、加齢による筋肉の衰えや生活の不活発が大半を占めています。介護状態に陥ることを予防するためには、中高年からの定期的な運動習慣や身近な地域で「住民主体の集いの場」の地域展開の支援に取り組んでいます。
- ・新型コロナウイルス感染症について、感染拡大を防止するため、感染症に関する迅速な情報提供を図るとともに、予防接種を推進します。
- ・依然として発生している自殺については、うつ病などの精神疾患が関係していることも多く、こころの健康づくりも重要になっています。

#### (2) 課題

- ・市民ひとり一人が、自分自身の健康状態を把握し、日頃から楽しみながら健康づくりに取り組むことができる環境づくりが重要であり、ライフステージに応じた切れ目のない健康づくりを支援していく必要があります。
- ・特定検診やがん検診の受診率、特定保健指導の実施率の向上を図る必要があります。
- ・感染症の流行期で外出や他者との接触が制限された状況下においても、ICTを活用し健康相談や体を動かす機会をつくる必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症など、新たな感染症の予防に対する意識を高め、感染予防対策が自然に実践できるよう周知啓発を図る必要があります。

### (3) 施策

#### ① 健康づくり活動による健幸長寿のまちを実現します

- ・市民の健康や健康寿命の延伸を啓発するための啓発活動や検(健)診の受診勧奨及び受診しやすい体制づくりを通じて、市民一人ひとりの健康に対する意識を高め、疾病予防や健康づくりを推進します。
- ・それぞれの生活や年代など、ライフステージに合わせた疾病予防と健康づくり事業を推進します。市民の自発的な健康づくりを支援するため、地域やボランティア組織など多様な活動主体による事業を実施するとともに連携を強化します。
- ・こころの健康づくりを推進するため、ストレスや心の悩みを抱かえている当事者や家族に対する相談体制の充実を図るとともに、互いに支えあえる地域づくりを目指します。

#### ② 新型コロナウイルスなど感染症予防や対策を充実します

- ・感染症の発症や重症化を予防するため、正しい知識の情報提供を図るとともに、感染症の予防に有効であるワクチンの予防接種の啓発や接種勧奨を行います。
- ・市民に重大な被害を及ぼす感染症の流行に備えるため、感染症の拡大防止体制の強化に努めます。

#### ③ 高齢者の介護予防を一体的に推進します

- ・介護予防が必要となる虚弱な状態である高齢者を把握し、介護予防事業等への参加を促すことで、状態の改善や維持、悪化の遅延を図り、自立した日常生活をおくることができるよう支援します。
- ・高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細かな支援を実施するため、庁内関係部所が一体的となって施策を考案し、効果的な介護予防の取り組みを実施していきます。
- ・KDB システムを活用し、地域の健康課題の分析や支援が必要な高齢者の把握をすることで、高齢者に対する個別支援(ハイリスクアプローチ)といきいき百歳体操やいきいきサロン等通いの場等への積極的な関与(ポピュレーションアプローチ)に取り組んでいきます

### (4) 関連する計画

- 健幸都市“ウエルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- ウエルネスシティ 宇陀市健康づくり計画
- 自殺対策計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画



## 施策の方向性1-2

### みんなの幸せを支える福祉環境づくり



#### (1) 現状

- ・少子化や高齢化の進行、単身世帯の増加、地縁・血縁や地域のつながりの希薄化による社会的孤立などの影響により、介護や障がい、子ども、生活困窮などのさまざまな分野の課題が複合化し、単一の制度のみでは対応しきれなくなっています。
- ・複合的な生活課題を抱えた人を支援するためには、分野を超えて連携し、横断的かつ包括的に相談や支援を行う体制が求められており、断らない相談支援体制として、重層的支援体制構築を令和3年度から開始し、保健・福祉の関係部署が関係機関と相互に情報共有や連携を図りながら、専門性を活かしたきめ細やかな相談支援を行っています。
- ・手話が言語であるとの認識に基づき市民の手話に対する理解を深め、ろう者が地域や職場で安心して生活できる環境や、障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段に対する理解及びそれらを利用するための環境整備に取り組んでいます。
- ・医療的ケアが必要な重度の障がい児(者)への日常生活を支援する上で、受け入れ先の確保が難しく、家族への介護負担が大きくなっている状況にあります。

#### (2) 課題

- ・複合的な生活課題を抱えた人を支援する重層的支援体制において、制度につなげるだけではなく社会参加や福祉の地域づくりに向けた支援が望まれています。
- ・地域福祉の担い手の発掘や養成、担い手を中心とした支え合いの体制の構築が重要となる中、民生委員・児童委員などとの地域福祉の担い手の連携強化や活動しやすい環境づくりに取り組む必要があります。
- ・高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、誰もが相互に理解を深め尊重し、支え合う意識を醸成することが重要です。
- ・元気な高齢者が、長年培った知識や経験、技術を生かすことができる機会や場所をつくる必要があります。

- ・認知症や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分なため、財産の管理や日常生活などに支障がある人を社会全体で支え合うため、成年後見制度を推進していく必要があります。
- ・医療的ケアが必要な重度の障がい児(者)が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、福祉と保健・医療との連携を十分に行いながら、医療的ケアの充実と居場所の確保に向けた取り組みが重要です。

### (3) 施策

#### ① だれもが住み慣れた地域で安心して生きがいを持って暮らせるよう支援します

- ・高齢者、障がいのある人をはじめとした市民だれもが住み慣れた地域で暮らし続けることができよう、人々の尊厳と権利を守る地域包括ケアシステムを推進します。
- ・認知症施策、介護予防、在宅医療と介護の連携を推進し、介護が必要となった人のニーズに対応したサービスを提供するとともに、その家族を含めた支援を関係者が連携して提供できるよう、取り組んでいきます。
- ・令和2年4月に施行された「宇陀市手話言語条例」と「宇陀市障害者コミュニケーション条例」に基づき、手話に対する理解の促進と手話の普及、また、障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の普及及び利用促進を推進します。
- ・障がい者が安定した生活ができるよう、日常生活の支援や社会参加の機会を促すためのサービスを提供します。
- ・障がいに関する啓発や関連団体の活動支援等を進め、障がいに対する理解を深め、障がい者が地域活動等、あらゆる分野の活動に参加する機会を得られるよう地域福祉の推進を図ります。
- ・重症心身障害児(者)の医療的ケアのニーズを把握するとともに、福祉、保健、医療との連携の強化、相談支援の充実を図りながら、安心して過ごせる居場所づくりを進めます。

#### ② 面倒見のいい地域福祉の推進します

- ・複合的な生活課題を抱えた人を支援するために、早期に相談対応できる「断らない福祉相談支援」の充実、「だれ一人取り残さない居場所づくり」「地域で支え合う関係」を推進します。
- ・失業等の理由での生活困窮者の自立を促すために、自立相談支援員や就労支援員の窓口を設け、相談に応じて、就労準備支援、家計改善支援等のメニューを活用しながら就労による自立へ繋がるよう支援します。
- ・地域福祉の中心的役割を担う社会福祉協議会や、ボランティア団体等の各種関係団体の連携強化、地域の関係者や住民による見守りや助け合い活動の推進を図ります。
- ・認知症や知的障がい、精神障がい等を持つ人の権利を守り、財産の管理や日常生活などに支障がある人を社会全体で支え合う成年後見制度などの相談に対応する「権利擁護センター」

を設置します。

- ・虐待予防のための相談体制の充実から発生時の迅速な対応、虐待を受けた子どもや障がい者、高齢者の自立支援等に至るまで、切れ目のない支援を受けられる体制の構築を目指します。

### ③ 医療費の助成による安心できる暮らしを実現します

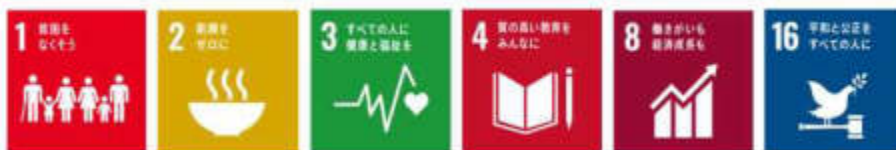
- ・病気の早期発見、早期治療ができるように、国民健康保険加入者に対して人間ドック等の費用の一部助成等を行います。
- ・子どもや高齢者に対する医療費の補助等を行うことで、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

## (4) 関連する計画

- 健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市子ども・子育て支援事業計画
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 宇陀市障がい者計画
- 宇陀市子ども・子育て支援事業計画
- さんとぴあ榛原経営戦略
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 宇陀市地域福祉計画及び地域福祉活動計画

## 施策の方向性1-3

### 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実



#### (1) 現状

- ・核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育ての知恵や経験を家族や地域で共有する機会が少なくなっています。
- ・結婚から妊娠期、乳幼児期においてそれぞれの過程において切れ目のない支援を行い、子育て世代が安心して育児ができる環境の整備に取り組んでいます。
- ・出生数は平成28年度以降、減少しており、令和2年度は81人となっています。
- ・雇用環境の変化、子育てにかかる費用の増加など、子どもや子育てを取り巻く環境が厳しくなっています。
- ・発達に気がかりのある子どもや要保護児童、ひとり親家庭など、支援が必要な子どもや家庭を専門的、総合的に支援しています。
- ・放課後学習支援として、児童の安全な居場所を確保し、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動を行っています。
- ・就労状況の変化に伴い、幼稚園の定員充足率が低く保育ニーズが高まっています。
- ・榛原地域就学前施設は築40年以上経過しているものもあり、老朽化に伴う雨漏り等、施設管理や運用に困難が生じています。又、比較的新しい大宇陀こども園等においても、防水改修を行いながら対応していますが、今後、計画的な大規模改修が必要な状況です。
- ・社会全体のつながりが希薄化している中で、新型コロナウイルス感染症の影響により人との接触機会が減っており、それが長期化することで社会的な孤独・孤立の問題の深刻化が懸念されています。

#### (2) 課題

- ・将来の結婚や子育てに希望が持てるよう、働きながら子育てがしやすい環境づくりや支援を進める必要があります。
- ・安心して妊娠や出産ができる環境を整えるとともに、母親が子育てに不安や孤立感を持たないよう、妊娠期から切れ目のない相談支援や情報提供などを継続して行う必要があります。
- ・子どもを取り巻く環境の変化などにより、保護者の多様なニーズに対応できる子育てサービスを提供する必要があります。

- ・いつでも気軽に子育ての相談ができる場の充実や仕組みを作る必要があります。
- ・地域ぐるみの活動や世代間交流を促し、地域全体で子どもを育てる活動を進める必要があります。
- ・地域ぐるみで子育てを応援する意識の醸成や自主的な取組みに対する支援が必要です。
- ・発達に気がかりのある子どもへの支援、要保護児童への対応、ひとり親家庭への自立支援を強化する必要があります。
- ・子どもの健やかな成長においては心身ともに健康であることが重要であり、母子の健康づくりを支えるための取組みに重要となっています。
- ・将来的な子どもの減少を見据え、榛原地域における公立幼稚園と公立保育園を包括する、幼保連携型認定こども園の設置に向けての検討・整備が必要となります。
- ・施設の長寿命化を図るため早い段階での大規模改修が必要となります。
- ・こども食堂は、運営補助のほか、運営団体への情報交換会の開催や、運営者と食材提供者や協力したい人をつなぐネットワークづくりが必要となります。
- ・新型コロナウイルスの影響で子育てに悩む保護者が孤立するリスクは高まっており、感染拡大により地域などで子どもを見守る機会は減っています。
- ・ヤングケアラーの背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といったさまざまな要因があり、ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、本人の育ちや教育に影響があります。

### (3) 施策

#### ① 保護者のニーズに応じた子育てしやすい環境づくりを進めます

- ・子育て支援センターの機能や相談体制を充実させ、子育てネットワークの構築、出産・育児・子育てに関する相談・交流・情報交換等の支援等に取り組みます。
- ・仕事と子育ての両立を実現するために、一時預かり保育や病後児保育事業などのこれまでに実施してきた取り組みを含め、多様な働き方にあわせて柔軟に利用できる子育て支援事業の充実や教育・保育施設の充実を図ります。
- ・出産時や小学校及び中学校入学を迎える世帯への経済的な支援やこども食堂の運営を支援し、地域で安心して過ごすことの出来る「居場所」づくりを推進します。
- ・出産や育児の助けとなる子育て関連の図書を充実させ、子育て中の保護者を支援します。

## ② 子どもが健やかに育つよう支援します

- ・子どもの健やかな成長のために、電話・面接・訪問等による個別相談での健康教育を通じて、出産後の育児に関する知識の普及や保護者の交流を支援します。
- ・子育て中の保護者と子どもと一緒に過ごせる時間を持てるように、子育て支援センターやファミリーサポートセンター、図書館等での読書活動・講座開催を推進します。
- ・家庭総合支援拠点において、すべての子どもとその家庭及び妊産婦等を対象とし、その福祉に関し、必要な支援に係る業務を行い、要保護児童等への支援業務の強化を図ります。
- ・ヤングケアラーについては、福祉、介護、医療、教育等といった様々な分野が連携し、ヤングケアラーを早期に発見した上で支援を重層的な支援を行います。

## ③ 産前産後の支援・乳幼児への支援を充実します

- ・女性が安心して妊娠・出産・育児ができる環境づくりのため、妊産婦や乳幼児の健康管理などの支援の充実に取り組むとともに、関係機関との連携の強化を図ります
- ・妊婦の健康管理、異常を早期に発見をすることで、妊婦が安全・安心に妊娠を経過し、出産できるよう支援体制を充実させます。
- ・子育て世代包括支援センターにおいて、主として妊産婦及び乳幼児並びにその保護者を対象とし、妊娠期から子育て期にわたり、母子保健施策と子育て支援施策を切れ目なく提供するため、妊娠・出産・育児に関する各種相談支援を行います。
- ・一般不妊治療・不育症治療の助成をすることで、経済的負担の軽減を図ります。

## (4) 関連する計画

- 宇陀市子ども読書活動推進計画
- 第2期子ども・子育て支援事業計画
- 宇陀市地域情報化計画
- 健幸都市“ウエルネスシティ宇陀市”構想
- ウエルネスシティ宇陀市健康づくり計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 宇陀市地域福祉計画及び地域福祉活動計画

## 施策の方向性1-4

### 地域医療体制の充実



#### (1) 現状

- ・乳幼児から高齢者まで、住み慣れた地域で、安心して医療が受けられる体制を整備するために、前期計画期間では、中核病院となる宇陀市立病院の機能強化（医師の確保と地域医療部の創設）と、高齢化に伴う在宅療養者の増加に対し、質の高い在宅医療の提供に向け、在宅医療と介護の連携点である医療介護あんしんセンターや介護支援専門員などと連携し退院支援を充実させ、切れ目のない継続的な医療体制を図ってきました。在宅療養に関わる多職種が双方向に情報連携できる地域医療・介護連携 ICT 「宇陀けあネット」を導入し、地域包括ケアシステムの推進に取り組んできました。
- ・平成 30 年より開業医の閉院が相次ぎました。正確には榛原地域 1 院、大宇陀地域 2 院が閉院いたしました。これにより人口約 6000 人の大宇陀地域は開業医が 1 院のみとなりました。
- ・令和 2 年高齢者生活圏域ニーズ調査では、将来の心配ごとと困りごとについて「病気や介護のこと」を一番に挙げる高齢者は全体の 58.4%でした。今後、医療や介護におけるニーズの増加が予測されます。
- ・総合計画市民アンケートにおいても、宇陀市が必要な取り組みについて「医療体制の充実」を挙げる方が 1 位 46%でした。

#### (2) 課題

- ・平成 30 年開業医の相次ぐ閉院により医療過疎地域ができてしまった。
- ・今後も開業医の高齢化・後継者不足により、同じような地域が増加すると考えられる。
- ・医療介護サービスを必要とする高齢者が増える一方、サービスを提供する医療従事者、介護従事者が減少しニーズに対応できなくなることが予想されます。
- ・地区医師会と宇陀市立病院とが連携し医療体制の強化を図る必要があります。

### (3) 施策

#### ① 医療体制を充実します

- ・宇陀市立病院を東和医療圏内における東部地域の中核病院として機能させるため、市民にとって「面倒見のいい病院」を目指します。
- ・宇陀市立病院が「面倒見のいい病院」としての役割を果たすため、引き続き宇陀市の地域包括ケアシステムの中核病院として病診連携、病院連携、介護医療連携に努め、患者の受け入れを行います。
- ・宇陀市立病院は、「へき地医療拠点病院」の指定を目指し、へき地診療所への代診医派遣、宇陀地域医療介護連携ICT「宇陀けあネット」を活用した診療情報提供支援、訪問診療・訪問リハビリテーションを実施し、その役割を果たします。
- ・宇陀市では、地区医師会と連携し、奈良県立医科大学の協力を得ながら医療提供体制を整備します。特に近年市内開業医の閉院や高齢化など医療資源が減少している地域に対するアウトリーチを行い、移動可能な診療所として移動診療車による巡回診療を実施します。併せて巡回診療をきっかけとする地域の集いの場をつくり、高齢者が安心して生活できる仕組みをつくります。

#### ② 地域医療と福祉の連携を推進します

- ・病院から地域へのシームレスな在宅移行や介護が必要な方が安心して病院への入院・退院・在宅療養ができる環境づくりを実現するため、平成27年度に策定した「東和医療圏入退院の連携マニュアル」に基づき運用していますが、さらに連携率を向上させるとともに質の高い入退院調整が図れるよう多職種での連携を推進します。
- ・市民が住み慣れた地域で安心安全な医療・介護サービスを受けられるようにするため、地域ケアシステム構築の一環として、中核病院や医科・歯科診療所、訪問看護、薬局、介護事業所などを ICT 技術を活用したネットワークである宇陀地域医療介護連携ICT「宇陀けあネット」をさらに活用し、医療・介護サービスの向上・効率化を目指します。

### (4) 関連する計画

- 健幸都市“ウエルネスシティ宇陀市”構想
- ウエルネスシティ 宇陀市健康づくり計画
- 宇陀市地域包括ケアシステム全体構想
- 自殺対策計画
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画



## 目指すまちの姿 暮らしやすいまち

### “暮らしやすいまち”を実現するための「施策の方向性」

- 2-1 みんなが住み良いまちづくりの実現
- 2-2 移住・定住の促進強化
- 2-3 公共インフラの持続的な整備・維持・活用
- 2-4 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現

### “暮らしやすいまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方等
住みやすさ ランキング (県内の市)			【まちの住みやすさの向上】 暮らしやすいまちづくりを進めることで、県内他市と比較して「住みやすさ」が向上すると考えられます。
人口の社会動態 (転入者数 -転出者数)	-205人 (2017年度)	-150人	【社会増減数(転入者数-転出者数)の改善】 まちの住みやすさが向上することによって、市外への転出者数が減少し、市外からの移住が促進されることで、社会動態の減少数が小さくなると考えられます。

## 施策の方向性2-1

### みんなが住み良いまちづくりの実現



#### (1) 現状

- ・宇陀市の人口(国勢調査人口)は、1995年をピークに減少しており、2020年には28,144人となっています。人口減少により空き家や空き地が増えています。
- ・松山地区伝統的建造物群保存地区の歴史的街なみの価値を維持し、高めるため、町家等の建造物の修理・修景に対する支援を行っています。
- ・市民アンケート調査で、「宇陀市の印象・イメージ」について約9割が「緑が多く自然が豊か」と回答しています。
- ・全国的に児童や未就学児らが死傷する痛ましい交通事故が発生しており、通学路等の安全対策が望まれています。
- ・防犯や交通事故防止のため、各種関係団体による啓発活動等を支援しています。
- ・幅広い年齢層にスマートフォンの利用が普及している中で、情報通信に関わる消費者相談が増加しているほか、特殊詐欺などの被害やハガキによる架空請求の相談も依然として多くなっています。

#### (2) 課題

- ・本市が持つ強みの一つである自然に恵まれた良好な環境を活かしつつ、環境と経済が両立するまちづくりをめざし、自然や歴史・文化と調和した景観形成や生活環境整備を進めていく必要があります。
- ・空洞化が進む市街地において、景観に配慮した住みやすいまちづくりを行う必要があります。
- ・防犯や交通事故防止のための取り組みを継続していく必要があります。
- ・子ども達が安全に通学や活動ができるように、通学路等の安全確保が必要です。
- ・横断中の歩行者の保護や、飲酒やおおりなどの危険運転の防止など、交通ルールの遵守と自動車の運転マナーの向上について、啓発する必要があります。
- ・児童や若年層、高齢者などあらゆる年代に消費者保護に向けた啓発を行う必要があります。

### (3) 施策

#### ① 景観や環境に配慮したまちづくりを進めます

- ・良好な景観や環境に配慮したまちの形成や市民生活における安全対策として、危険度の高い空き家を把握し、行政での撤去に向けた取り組みを推進します。
- ・宇陀市内で活動する団体に対し、空き家住宅等を地域資源として再生を支援します。

#### ② 交通安全対策や防犯、消費者保護を進めます

- ・安心して安全な市民生活を実現するため、交通事故の未然防止のための交通安全施設の整備や交通ルールの遵守、正しい交通マナーの実践を習慣づけるための啓発活動等を推進します。
- ・空き巣やひったくり等の犯罪に対し、市民の防犯意識を高め、犯罪を抑止するための啓発活動に取り組みます。
- ・女性や高齢者を狙った特殊詐欺やインターネットを利用した新たな悪徳商法等も増加に対して、県と連携し、安全、安心な消費生活実現のための相談窓口の強化に取り組み、消費者保護を推進します。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市空き家等対策計画
- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市松山伝統的建造物群保存計画
- 県と市のまちづくり連携協定
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性2-2

### 移住・定住の促進強化



#### (1) 現状

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う新たな生活様式の浸透により、移住体験の希望者が増加しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、大都市圏への人口集中の脆弱性が改めて顕在化し、地方回帰への関心が高まっています。
- ・人口減少が進む中、定住促進に向けて、移住者の住宅取得やリフォームに対し助成を行っています。
- ・進学を機に市外で就職する若者が多く、労働力の市外流出により人手不足となっています。
- ・本市では少子高齢化の進展や転出者が転入者を上回る、人口の社会減少が続いています。また、就学・就業を機に若者が宇陀市を離れるほか、雇用環境が悪化している中で働く世代の流出が大きな問題となっています。一方で、主要産業である農林業や皮革産業等の地場産業では担い手が不足しています。
- ・市営住宅は、公営住宅等長寿命化計画に基づき適切な修繕・管理を行っています。

#### (2) 課題

- ・地方回帰への関心が高まっているものの、宇陀市にはまだ十分に波及しておらず、大都市圏在住者に宇陀市に関心を持ってもらうための情報発信が課題です。
- ・移住体験施設の利用を周知し、宇陀市を知っていただき、体感していただくことで移住定住を促進する必要があります。
- ・人口減少により空き家の数は増えていますが、空き家情報バンクへの登録物件は少なく制度を周知する必要があります。
- ・定住促進に向け、優良な空き家の効果的な利活用を促す必要があります。

### (3) 施策

#### ① 土地利用を推進します

- ・住宅地や商業地、工業地等の健全な発展と秩序ある整備を進めるとともに、農地や森林地域等、自然環境の保全・活用を図ります。

#### ② 移住・定住者への総合的な支援を充実します

- ・人口減少、少子高齢化の進展する状況下において、本市が持つ自然・歴史・文化面での魅力やポテンシャルを大きく内外にPRし、本市に訪れたい、住みたい、関係したいという人を増やすための活動やソフト事業を推進し、本市のイメージアップを図ります。
- ・独身男女の出会いイベントを支援することにより、地域全体で若者の結婚を支援する気運を高め、本市の魅力アピールしたイベントと連携しながらカップルの成立や結婚、本市での定住を推進します。
- ・本市への移住や定住を促すため、市内の空き家の情報提供や18歳以下の子どもがいる世帯の転入転居に際しての定住促進奨励金の交付や本市での結婚・新婚生活のスタート、住宅取得時における奨励金・商品券の支給など、総合的な支援に取り組みます。
- ・公営住宅等長寿命化計画を踏まえながら、老朽化が進む市営住宅を耐久性の向上や躯体の劣化の低減、維持管理の容易性向上の視点から適切な改善を行います。
- ・移住や定住につながるよう、積極的な雇用情報を発信するとともに、宇陀市の特徴の一つである大阪府や近隣自治体との近接性を活かし、宇陀市で暮らし続けられる雇用環境づくりに取り組みます。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市立地適正化計画
- 県と市のまちづくり連携協定
- 宇陀市公共施設等総合管理計画
- 宇陀市公営住宅等長寿命化計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性2-3

### 公共インフラの持続的な整備・維持・活用



#### (1) 現状

- ・本市では、これまでに都市計画道路の整備を進めてきており、都市計画道路の整備率は全国や奈良県全体、奈良県内の周辺市町と比較しても高い水準にあります。
- ・橋梁や道路舗装などの老朽化が進んでいます。
- ・市民の通勤や通学、通院、買い物などの日常生活における移動手段として必要不可欠な公共交通を維持するため、利用促進や広域路線バスの運行支援に加え、有償バスやデマンド型乗合タクシーを運行しています。
- ・少子化や人口減少の進行、さらには新型コロナウイルス感染症の影響により、各公共交通機関の利用者は減少しています。
- ・上水道は、施設や経営の統合などを踏まえて計画的に事業を進めていますが、人口減少や節水意識の高まりにより料金収入が減少しています。
- ・ICT の進展は、社会や経済、生活など幅広い分野にその影響が及んでいます。また、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に進められている「新たな日常」を構築するため、社会全体のデジタル化が進んでいます。
- ・災害に強いまちづくりを推進するため、防災拠点・緊急輸送道路の整備を行う必要があります。
- ・国や県の道路計画において国道 165 号が中和津道路として位置付けられています。

#### (2) 課題

- ・市民の健康づくりや観光客のまち歩き、低炭素社会の実現のため、歩行空間を創出する必要があります。
- ・公共交通機関の利用者が減少し続ける中、運行経費は増大しており、将来にわたって持続可能な公共交通とする必要があります。
- ・自動車を運転できない人のニーズを把握し、地域の実情に応じた公共交通の運行方法を検討する必要があります。
- ・まちづくりと連携した公共交通体系の整備と充実を図り、多様な市民活動の活発化を促進する必要があります。

- ・上水道は、人口減少や施設の老朽化などに対応した、効率的で持続可能なインフラ資産とし安定した経営基盤をつくる必要があります。
- ・下水道施設について、効率的で持続可能な維持管理や施設の更新などによる安定した経営基盤をつくる必要があります。
- ・時代に応じた地域情報化を着実に推進し、活用を促進する必要があります。

### (3) 施策

#### ① 安全で快適な道路環境を整備・維持します

- ・市内の生活道路・観光道路ネットワークを充実させるため、市道の整備、維持補修に取り組みます。
- ・市道の舗装補修や街路灯の補修など、安心して道路が利用できる環境づくりに取り組みます。
- ・橋梁やトンネル等の構造物の長寿命化や計画的な補修等に取り組み、災害発生時においても緊急輸送ネットワークを維持できるよう、対策を推進します。
- ・中和津道路の重要物流道路として経済が活性するよう、近隣自治体と整備に向けた国や県への働きかけを作ります。
- ・宇陀市内の拡幅道路改良が必要な県道の早期充成に向けて、引き続き県へ要望していきます。

#### ② ニーズに応じた地域公共交通を推進します

- ・市民の円滑な交通を確保するために、路線バス事業者への補助や宇陀市社会福祉協議会が事業主体となっている公共交通空白地有償運送事業(らくらくバス)に対する補助金を交付します。また、路線バスが廃止された路線では、バス事業者に代わってコミュニティバスやデマンド型タクシーの運行を行います。
- ・「宇陀市地域公共交通計画」にもとづき、都市拠点や交流拠点におけるアクセス性・拠点性の強化や拠点と各集落を結ぶ地域公共交通ネットワークの維持、地域特性に対応したサービスの見直し、地域住民や利用者の意識の醸成、それぞれが主体性を持った移動サービスの支援体制の構築に取り組みます。

### ③ 効率的で安心・安全な上下水道の運営を推進します

- ・安全な水を安定して供給するため、水道未普及地域の解消、水道施設の耐震整備等に努め、安定した経営基盤の構築のための県域水道一体化に取り組みます。
- ・平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、管路更生工事等を計画的に行い施設の長寿命化を図ります。

### ④ デジタル化に対応した情報環境の整備を進めます

- ・国が定めた自治体 DX 推進計画の実現のため、デジタル技術やデータを活用して業務の効率化と合理化を図り、市民の利便性の向上を図ります。また、マイナポータルからマイナンバーカードを用いた行政手続のオンライン化を進め、書かない窓口、ワンストップ窓口の実現に向けて取り組みます

## (4) 関連する計画

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 県と市のまちづくり連携協定
- 橋梁長寿命化修繕計画
- 宇陀市地域公共交通網形成計画
- 宇陀市水道ビジョン
- 宇陀市水道事業経営戦略
- 水質保全業務・未普及地域の解消・老朽化施設の計画的更新
- 宇陀市水道事業認可(4次拡張)
- 宇陀市流域関連公共下水道事業計画
- 宇陀市下水道ストックマネジメント計画
- 宇陀市地域情報化計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 宇陀市地域防災計画
- 宇陀市国土強靱化地域計画



## 施策の方向性2-4

### 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現



#### (1) 現状

- ・本市は、南海トラフ地震の南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されているとともに、地球温暖化が原因とされる気象の急変な変化や台風や集中豪雨等の自然災害の頻発化・激甚化による被害リスクが高まっています。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が避難所の運営体制に影響を及ぼしています。
- ・消防団員の高齢化や減少が進む中、各種災害に対応できるよう自主防災組織への資機材の整備に努めています。
- ・消防体制の強化を図るため、消防車両を計画的に更新整備しています。
- ・本市における自主防災組織の結成率は、令和3年4月現在で74%となっています。
- ・市域の7割程度を山地が占め、急傾斜地崩壊危険箇所等土砂災害の危険性が高い地域特性となっています。
- ・市の人口の約40%が高齢者となり、災害時に支援を必要とする要配慮者が増加しています。

#### (2) 課題

- ・急傾斜地の多い宇陀市では、住民の生命・生活を守るため、国や県と連携して土砂災害対策事業を推進する必要があります。
- ・「自分の命は自分で守る」の考えを前提に、自治会と連携した自主防災組織等による地域主体の防災訓練等を充実させ、市民一人ひとりの更なる自助・共助の意識の向上を図り、公助を併せた防災・減災体制の構築が求められます。
- ・住宅の耐震化の必要性について市民の意識を高め、耐震化を促進する必要があります。
- ・災害時における関係機関の連携体制を強化して感染症対策を講じた安全で誰もが健康を維持できる避難所を整備する必要があります。
- ・被害想定に対応した資機材の拡充と効率よいローリングストックをベースとした備蓄品等を更新する必要があります。
- ・適宜地域防災計画の見直し及び宇陀市ハザードマップの更新を行い、ホームページへの掲載や配布により災害対策について市民へ周知を行っていますが、今後もより分かりやすい緊急時の情報伝達の強化が必要です。

- ・消防車両の適正な維持管理と老朽化した消防車の計画的な更新整備を進める必要があります。
- ・さまざまな危機事象に備えるとともに、被害を最小限に抑えるため、災害発生時における危機管理体制の充実やソフト・ハードの両面からの防災力・減災力の向上が求められています。
- ・災害が予想される場合の早期避難、災害が発生した場合の安否確認等により避難行動要支援者の安全確保を図る必要があります。

### (3) 施策

#### ① 自然災害や感染症に強い安心して住み続けられるまちづくりを推進します

- ・昨今の風水害や地震等の激甚化を踏まえ、被害を最小限に抑えるため、緊急時にCATVや安全・安心メール、ホームページ等を利用し、市民へ迅速かつ的確に伝達できるよう、多様な情報手段の充実を図ります。
- ・本市では、県と連携し、県事業である急傾斜地への崩壊防止施設の設置や地すべり対策工事を実施するほか、国とも連携することで、土石流等の防止のための砂防堰堤等の設置等を推進し、流域の地域住民の生命・財産を守ります。
- ・土砂災害特別警戒区域の既存建築物のうち、構造耐力上の安全性を有しないものに対して改修に必要な費用の一部を補助するなどの災害に強いまちづくりを推進します。
- ・今後、発生が予想されている南海トラフ地震への備えとして、災害発生時の避難所となる公共施設をはじめとした施設の耐震化を推進します。また、木造住宅の耐震化の補助を実施し、住民の安全な暮らしを守ります。

#### ② 防災意識の向上と防災・消防体制を強化します

- ・市民の防災意識や地域の防災力向上を目指し、新型コロナウイルス感染症や自然災害に行政と住民が一体となって災害対策活動体制を強化するため、自主防災組織の結成や防災・減災活動に対して補助金給付等の支援を行います。
- ・配慮が必要な方も安全に避難行動できるように避難所の感染症対策や安全で誰もが健康を維持できる施設の整備を進めるとともに、防災資機材の拡充と効率よいローリングストックをベースとした備蓄品の更新や宇陀市消防団組織再編計画にもとづき、消防機庫の整備等を行い、防災・減災力の維持・強化に取り組みます。
- ・災害発生時に要支援者への支援が行き届くよう、地域と行政が連携し、情報を共有できる体制の構築を進めます。

#### (4) 関連する計画

- 宇陀市地域防災計画
- 宇陀市消防団組織再編計画
- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市国民保護計画
- 宇陀市国土強靱化地域計画
- 宇陀市業務継続計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 目指すまちの姿 活力あるまち

### “活力あるまち”を実現するための「施策の方向性」

- 3-1 地域資源の保全及び産業と連携した活用
- 3-2 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成
- 3-3 基幹産業である農林業の再生・活性化
- 3-4 商工業の再生・活性化
- 3-5 観光戦略の推進

### “活力あるまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方等
地域資源を活かした商品開発数	37件 (2017年)	60件	【地域資源を活かした産業の活性化】 地域の特性を活かした産業振興等により、地域資源を活かした商品(食品、農林産物、観光商品等)の開発が進展すると考えられます。
観光入込客数	1,401千人 (2017年度)	2,000千人	【観光の活性化】 市内における経済活動の活発化を目指して、地域資源を活用した観光戦略を推進することで、観光入込客数が増加すると考えられます。

## 施策の方向性3-1

### 地域資源の保全及び産業と連携した活用



#### (1) 現状

- ・本市には、女人高野として有名な室生寺の数多くの仏像や建造物をはじめ、国・県・市指定の文化財や歴史的なまちなみがあります。また、古代より続く長い歴史と文化のなかで継承されてきた魅力的な行事や芸能も存在しています。
- ・郷土の歴史や文化財、伝統文化を地域の魅力として利活用しようとする動きがみられます。
- ・伝統文化の担い手や文化財の管理者が減少しており、保存継承が困難になりつつあります。
- ・松山伝統的建造物群保存地区への入口に位置する町屋を活用した松山地区まちかどラボを設置しています。
- ・宇陀松山城跡の史跡指定地の拡大と公有化に向け取り組んでいます。
- ・市内外での公共施設等の建築材料として宇陀市産材を利用してもらうなど PR を行っています。
- ・宇陀市の良さをブランドとして確立していくために、積極的な情報発信に取り組んでおり、発信するコンテンツの充実人材育成に取り組んでいます。
- ・交通条件の改善や自家用自動車の普及等により、郊外の大型店舗への買い物の流出が増え、後継者不足、経営者の高齢化が進み、事業者数、従業員数、販売額ともに下降傾向にあります。

#### (2) 課題

- ・伝統文化の継承や文化財の維持管理のための取り組みが必要です。
- ・宇陀市が持つ魅力を発信していくために、こうした貴重な文化遺産を保存・修復・継承しつつ、本市の貴重な財産として観光の面において有効活用していく必要があります。
- ・宇陀市の良さをもっと多くの方々に知ってもらうためには、宇陀市の豊かな自然・歴史・文化といった、「宇陀市ならではの」良さを積極的に発信し、PR するための取り組みが重要になっています。
- ・史跡宇陀松山城跡は、平成 29 年の台風による被害を受け復旧工事が急がれています。
- ・宇陀の木ブランド化のため、SNS 等を活用した情報発信が必要です。
- ・地域経済を活性化するために、地場産業の事業継承や地域ブランドによる高付加価値向上の必要があります。

### (3) 施策

#### ① 歴史・文化資源の整備や保護・活用を進めます

- ・遺跡の発掘調査を行うとともに、保護対策を講じることで後世に郷土の歴史を伝えます。国・県・市指定文化財の所有者が行う建造物等の保存修理においては、防災設備の設置・点検、環境整備に対し補助金を交付し、指定文化財の保護を行います。
- ・指定文化財である伝統文化や祭り、民俗行事、郷土芸能等の保存や後継者育成を担っている団体に補助金を交付します。
- ・市内にある貴重な文化財の保護・活用をはかる一助として、「文化財ボランティア」を養成・育成し、宇陀地域の歴史・文化を再認識や文化財愛護思想の高揚、地域文化財の保護、継承を図ります。
- ・歴史・文化資源については活用を進めるため、松山地区まちかどラボを拠点として活用するとともに、史跡地内を保護・整備していきます。

#### ② 宇陀産の誇れるものを「大和高原宇陀ブランド」として推進します

- ・宇陀市の魅力である農林業や特産品また自然、歴史、文化、景観等の地域資源を「大和高原宇陀ブランド」として、全国に PR するべく YouTube の媒体を活用するとともに、地域商社の在り方の構想することで、商品販売の役割を担い、今まで点で動いていた地域資源の活用を積極的に測れる仕組みを構築し、持続可能な地域経済の発展に努めます。

### (4) 関連する計画

- 史跡宇陀松山城跡保存整備基本計画
- 史跡森野旧薬園保存活用計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 県と市のまちづくり連携協定
- 大和高原宇陀ブランド魅力発信事業
- 宇陀市松山伝統的建造物群保存地区保存計画

## 施策の方向性3-2

### 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成



#### (1) 現状

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインやリモートなどの活用が拡大し、働き方が変化しています。
- ・本市では主要な産業であった農林業や地場産業である毛皮革産業では、生産数が減少しているうえ、担い手も不足しています。
- ・本市ではこれまでに、地域おこし協力隊をはじめとした宇陀市のまちづくりに興味を持つ方々との連携を深め、観光や農業等、多様な分野で将来を担う人材の育成に取り組んできました。
- ・地域の産業の発展をめざし、行政を含む、「産官学金」の連携を推進してきました。
- ・地域おこし協力隊を配置し、新たな産業振興のために活動しています。また、民間企業と金融機関と連携した商品開発を進めています。
- ・経営者の高齢化が進んでおり、後継者の不在状況が深刻となっています。

#### (2) 課題

- ・高齢者や外国人労働者を含め、多様な人材を確保する必要があります。
- ・オンラインやリモートを活用した働く環境を充実し、PRをする必要があります。
- ・市内での就職を促進するために、若者に魅力ある企業を誘致し、雇用の場を拡大することが求められています。
- ・農業においては荒廃する遊休農地の活用をはじめ、新規就農者の確保においても、農業を行う土地の不足や高額な耕作機械の更新等の課題があります。
- ・事業承継の現状と計画的な事業継承対策の必要性を考慮し、事業承継対策が必要です。

### (3) 施策

#### ① 起業家など多様な人材を育成します

- ・地域性を活かした起業家の育成に向けて、起業支援メニューの充実や空き家、空き店舗等を活用し、市内での創業件数の増加や起業家が市内で活躍するまちづくりを目指すとともに、廃業による空き店舗を活用することで、事業継承対策も進めていきます。
- ・柔軟な働き方を求めるニーズに応えるため、サテライトオフィスの誘致等で企業誘致を進め、本市で働ける場づくりに取り組みます。
- ・既存事業所の規模拡大が可能となる土地利用による雇用の確保を進めます。
- ・農林業では、高齢化の進展による担い手・後継者不足や有害鳥獣の被害のため、営農意欲を失うことによる離農が課題となっており、地域おこし協力隊制度を活用しながら、狩猟への関心や有害鳥獣対策に取り組む隊員に委嘱し、農業振興の推進を図ります。
- ・企業や大学など教育機関の校外授業を受け入れ、連携することで、官民の垣根を超えた市民サービスの提供や民間企業のノウハウを導入し、交流による関係人口の創出やまちづくりについての客観的なアイデアの活用につなげます

### (4) 関連する計画

- 大和高原の魅力ある仕事づくりに関する連携
- 宇陀市過疎地域自立促進計画  
協定



## 施策の方向性3-3

### 基幹産業である農林業の再生・活性化



#### (1) 現状

- ・少子化や高齢化が進み、若年層の農業や農山村への意識が低下し、農業活動の維持が難しくなっています。
- ・本市の林業は、木材の低価格化や林業従事者の高齢化により、後継者が不足しています。
- ・鳥獣害や耕作地の放棄などが広がっており、安心して継続的に農業を続ける環境が危機にさらされています。耕作農地の分散や農業後継者の不足などにより、経営規模の維持が限界となっています。
- ・農業経営においては農業用機械の更新費が負担となっています。
- ・山間部でのシカの日撃や被害が増えています。
- ・電気柵の普及によりイノシシの被害防止は一定の効果が出ていますが、サルやシカの被害が増加しています。
- ・伊那佐東部地区に県東部で初めて「特区」となる特定農業振興ゾーンを設定しています。
- ・害獣駆除と企業活動を併せ持つジビエ加工場の建設に向け取り組んでいます。

#### (2) 課題

- ・担い手や後継者不足による農地の荒廃や不耕作地の増加を防ぐため、スマート農業などによる集落を超えた広域化や協業化を推進する必要があります。
- ・農業の担い手への農地の集約と集積や耕作地の整備により、効率的で安定した経営を図る必要があります。
- ・農業に取り組む機会をつくり新たな生産者を確保することで、園芸作物の生産振興を図る必要があります。
- ・鳥獣害によって継続的に農業を続ける環境が危機にさらされます。
- ・シカ・イノシシなどによる獣害を防止する必要があります。
- ・農林産物の安定した販売に向け、経営・生産・流通体制を整備する必要があります。
- ・宇陀市ブランドの確立や付加価値の高い農作物づくりの推進、流通体制の構築などにも引き続き、取り組む必要があります。

- ・本市の林業を守るために、林業に携わる従事者を確保・育成するとともに、現在の林業従事者の経営基盤を強化する取り組みが必要です。

### (3) 施策

#### ① 地域の特性を活かした農業生産基盤の整備と農地の有効活用を推進します

- ・スマート農業の実践による生産・技術検証や令和2年度に奈良県からエリア指定された「宇陀市伊那佐東部地区」において、農業施策等の一部を支援することで高収益作物への転換による農業所得の確保、向上を目指します。

#### ② 人材の確保と育成など魅力ある農林畜産業経営を強化します

- ・農業生産条件の不利な中山間地域等において、継続的な農業生産活動等に対し、農用地を維持・管理していくための協定を締結し、農業生産活動等を行う場合には補助を行うなど、支援します。
- ・防除技術を持つ人物を各地域で育成し、地域ぐるみで効率的迅速な対策を講じるため、有害鳥獣ライセンス取得に対して助成をおこないます。
- ・有害鳥獣を活用したジビエ等、新たな需要を開拓し、産業化するための取組みを推進します。
- ・地球温暖化防止や生物の多様性保全に農業分野として積極的に取り組むため、環境保全に高い営農活動に取り組み、販売を目的として生産を行う各農業者団体に対しては補助を行うなど、支援します。

#### ③ 農林畜産物の生産・流通を推進します

- ・薬草栽培調査研究事業を行い、薬草のまちを積極的にPRします。
- ・黒大豆・小豆の産地化・ブランド化を図ります。
- ・生産を奨励する交付金事業を展開します。

#### ④ 山林を適切に管理します

- ・森林の有する多面的機能が確保されるよう、森林経営計画等の策定を通じた森林整備の促進を図ります。
- ・本市の森林を守り、林業を担う人材の育成を推進します。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 公共建築物における宇陀市産木材利用促進方針

## 施策の方向性3-4

### 商工業の再生・活性化



#### (1) 現状

- ・経営者の高齢化が進み、後継者不足による廃業が多くなっています。
- ・少子高齢化や若者の流出による人口減少の進行に伴い、地域産業や小売業における企業数、事業所数、従業員数は減少傾向です。
- ・今後の宇陀市の地域経済を支えていくために、主要産業である農林業や地場産業の振興とともに、新たな産業の誘致やイノベーションの創出などを通じた新たな産業の育成が重要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大など、予測不能な事態が全国的に発生しており、企業の生産体制や販売体制に影響が出ています。
- ・ウッピー商品券やプレミアムやっぴー商品券を発行し、個人の消費喚起を促し、地域経済の活性化を図っています。
- ・大和高原の玄関口である榛原駅周辺では、県施設跡地や商業施設跡地など未利用地が発生しています。

#### (2) 課題

- ・経営者の高齢化や後継者不足による廃業など、事業活動の縮小に対する支援が必要です。
- ・創業や企業誘致により市内における事業所数の増加を図るとともに、市内事業所が有する技術を生かし、時代に即した新たな産業分野への進出を促進する必要があります。
- ・大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症の感染拡大など予測不能な事態に備え、事業者が行うリスクに対する事前対策を促進し、事業継続力の強化を支援する必要があります。
- ・市内で活動する事業者の支援と新たな産業を誘致・育成を両輪で進めていく必要があります。
- ・ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた、新しい生活様式に対応した施策の必要があります。
- ・榛原駅周辺の未利用地の有効利用が必要です。

### (3) 施策

#### ① 商店街の活性化を支援します

- ・これまでの取り組みを継続し、ウッピー商品券やプレミアム商品券を発行することで地域経済の活性化を図ります。
- ・経営相談や補助金申請支援などの商工会活動に対して補助金を支給し、商工産業の振興を支援します。

#### ② 地元で活動する事業者を支援します

- ・市内の中小企業を対象に、事業経営に必要な運転資金や設備資金の融資を奈良県信用保証協会と金融機関の協力を得て行い、資金調達の円滑化、企業の合理化及び本市中小企業の振興発展を図ります。
- ・地場産業である毛皮革産業の育成と振興を図るため、奈良県と宇陀市の地場産業を市外や県外に積極的にPRし、情報発信していきます。
- ・市街化調整区域での産業用地として利用するため地区計画を定め、環境と調和した企業の事業拡大、活性化を進めます

#### ③ 企業誘致を進めるとともに新たな産業の展開を支援します

- ・企業を誘致しやすい基盤整備を図るとともに、空き店舗、空き事務所、市有地等を活用した誘致活動を進めていきます。
- ・新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式による、自然が豊かで大阪への利便性を活かした企業誘致を進めます。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 企業誘致に関する計画

## 施策の方向性3-5

### 観光戦略の推進



#### (1) 現状

- ・外国人観光客の受け入れ環境を整えるため、パンフレットの多言語化やフリーWi-Fiスポットの設置などの整備に取り組んでいます。
- ・本市には歴史文化や自然環境、温泉といった様々な観光資源が数多くあります。
- ・新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、外出の自粛やイベントの開催が困難になるなどの影響により、観光客が減少しています。
- ・地域活性化や賑わいを創出するためには、宇陀市が誇る多様な地域資源を活かしつつ、積極的なPRや戦略的なプロモーションを展開することが不可欠です。

#### (2) 課題

- ・「宇陀ならではの」体験プログラムや土産品の開発など、観光分野における仕掛けづくりが必要です。
- ・ターゲットに合わせた観光資源の効果的なPRを行うとともに、個々の観光資源を線でつなげる仕掛けが必要です。
- ・本市内にある道の駅等、老朽化している観光施設について、経費の削減と施設の魅力向上を図る必要があります。
- ・外国人観光客の受け入れ環境を整え、誘客に向けたPRが必要です。
- ・地域資源を生かした魅力ある商業活動を創造するとともに、観光客の滞在時間を延ばすなど、市内での消費額を増加させる取り組みが必要です。
- ・「関係人口」を増やすため、新たなファンを獲得するとともに、宇陀市への思いを高めてもらう必要があります。
- ・本市のみならず、広域での長期滞在・周遊型観光を提案する等、多様なニーズに応えるため、周辺自治体と連携したコンテンツづくりやプラン提供等を実現させる連携の枠組みを強化していく必要があります。

### (3) 施策

#### ① 魅力ある地域資源を維持し、観光地として整備します

- ・室生寺の協力を得ながらライトアップの実施や門前の商店を含めた地域活性化のためのイベントを開催し、本市の魅力ある地域資源を活かした観光を展開します。
- ・室生口大野駅においては、観光客への市内観光地のPRや交通・宿泊・食事等の案内などを行い、地域のイメージアップを図るとともに、観光地としての環境づくりを推進します。
- ・近年注目が集まっている「龍王ヶ淵」を観光地とするために、観光客を受け入れられるよう、環境整備に取り組みます。

#### ② 満足度を高める取り組みを推進し、観光客や関係人口を増やします

- ・本市の持つ魅力の一つである歴史資源を活かし、古事記・日本書紀・万葉集をベースとした事業展開を行います。
- ・奈良県と連携した歴史事業の実施や本市内にある多くの歴史的資源を活用した事業展開に取り組みます。

#### ③ 観光PRや情報発信を強化します

- ・宇陀市近隣の6市村と広域連携 DMO を設立し、圏域内の観光 PR、観光商品造成等観光まちづくりに取り組みます。また、大型の一軒家が多い本市の住宅事情を踏まえて民泊の可能性を得探るなど、新たな取り組みを推進するため、先進的な活動による実績を上げている飛鳥ニューツーリズムとの協働し、宿泊および民家ステイ等の滞在型観光による誘客に取り組みます。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市観光基本計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 目指すまちの姿 生涯輝くまち

### “生涯輝くまち”を実現するための「施策の方向性」

4-1 人権を大切にする共生のまちづくりの実現

4-2 子どもたちの教育環境の充実

4-3 多様な学びの場の整備・充実

4-4 スポーツ・芸術・文化の振興

### “生涯輝くまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方等
自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合	小学校:71.4% (2017年度)	85.0%	【自尊感情の向上】 教育の質がさらに向上することにより、自尊感情の高い子どもが増加すると考えられます。
	中学校:69.7% (2017年度)	85.0%	
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学校:63.9% (2017年度)	75.0%	【郷土に愛情を持つ子どもの増加】 子どもたちの教育環境の整備や地域における教育力を向上させることで、郷土に愛情を持った子どもが育ち、地域の行事に参加する児童生徒が増加すると考えられます。
	中学校:35.7% (2017年度)	55.0%	
市内主要施設の年間利用者数	187,927人 (2017年度)	188,000人	【スポーツ・芸術・文化への関心の向上】 スポーツ活動の充実・支援や芸術文化環境の充実を推進することで、市内施設の利用者数の維持・向上につながると考えられます。

※市内主要施設は、市民を中心に利用のある大規模施設として、文化会館・温水プール・公民館4館・ふれあい交流ドーム・図書館を設定

## 施策の方向性4-1

### 人権を大切にする共生のまちづくりの実現



#### (1) 現状

- ・今日においても、差別や偏見などの人権侵害の事例は依然としてみられます。例えば役所への同和地区問い合わせ事象など、同和地区や出身者を忌避・排除しようとする社会意識の存在がうかがえます。また、インターネットを悪用した人権侵害、LGBTQなど性的マイノリティの人に対する偏見といった新たな問題も生じています。
- ・人権に関する様々な相談に対応するため、人権擁護委員や民生委員・児童委員等との連携により人権相談を実施しています。また、女性専門相談員によるDV相談も継続して実施し、きめ細やかな対応に努めています。
- ・男女共同参画の精神と人権を尊重する心を育て、性別に関わりなく誰もが輝くことのできる社会の実現を目指して、地域団体と連携しながら、市民への啓発活動や学習活動を行っています。
- ・女性の社会進出が進んでいる一方で性別による固定的な観念が未だ根強く残っており、男女共同参画社会の実現の障害にもなっています。さらに、ドメスティック・バイオレンス（DV）が深刻な社会問題となっています。
- ・賃金や休暇などの労働条件だけでなく、ワーク・ライフ・バランスを実現することができる働きやすい職場環境が重視される傾向にあります。

#### (2) 課題

- ・同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決に向けた効果的な人権教育・啓発を、関係機関・団体などと連携して一層推進する必要があります。
- ・近年、多様化・複雑化する人権相談等に対応するため、関係各課や各機関との連携強化、相談員の資質向上が必要不可欠です。
- ・性別による固定された役割意識や社会慣行について、男女が対等に生きる意識と社会環境づくりが必要です。
- ・本市ではさまざまな啓発活動や人権教育に取り組むとともに、女性への暴力や児童虐待の防止の取り組みを進めてきました。今後も人権意識の向上や男女共同参画社会の実現、DVなどの暴力の防止に向け、取り組みの充実を図る必要があります。



- ・人材の確保と定着のために、ワーク・ライフ・バランスを実現し、多様な働き方ができる職場環境づくりと企業側の積極的な情報発信が求められています。

### (3) 施策

#### ① 一人ひとりの人権が尊重されたまちづくりを推進します

- ・人権を尊重した考え・行動ができる社会の実現を目指し、より多くの市民に、多様化・複雑化している人権課題についての知識や考え方を深めてもらうため、「宇陀市人権施策基本計画」に基づき、あらゆる分野において人権尊重の視点が活かされる効果的な施策を推進します。
- ・人権意識を高めることができるよう、家庭や学校、地域、職場などのあらゆる場で、効果的かつ実践的な人権教育や啓発をするための各種人権集会・研修会を開催します。
- ・人権問題におけるさまざまな事柄に対して、国・県や NPO 等の民間団体との連携・協働を図りながら、相談支援体制の充実を図ります

#### ② あらゆる分野での男女共同参画を推進します

- ・社会のあらゆる分野にさまざまな価値観と発想を取り入れるため、施策・方針決定過程への性別にとられない人材の参画を推進します。
- ・男女共同参画の正しい認識に立ち、一致団結してよりよい社会、潤いのあるあたたかい社会を目指す団体活動を支援します。

#### ③ 仕事と生活の調和がとれたワーク・ライフ・バランスを推進します

- ・仕事と生活の調和がとれたワーク・ライフ・バランスを実現するため、労働時間の短縮や休暇取得の推進、子育て支援や介護サービスの充実を図ります。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市人権施策基本計画
- 宇陀市地域福祉計画
- 特定事業主行動計画
- 女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画
- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 宇陀市男女共同参画計画
- 宇陀市地域福祉活動計画
- 宇陀市生涯学習振興指針
- 宇陀市学校教育の指導方針
- 宇陀市いじめ防止基本方針
- 高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画

## 施策の方向性4-2

### 子どもたちの教育環境の充実



#### (1) 現状

- ・宇陀の豊かな自然や文化、地域の人との関わりを通して学ぶ教育を進めることにより、子どもたちのふるさとへの愛着を育てています。
- ・「全国学力・学習状況調査」の平均正答率は、小中学生ともに、全ての教科で全国平均をやや下回っています。
- ・「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」では、小中学生ともに、全国平均を上回っています。
- ・外国語指導助手 (ALT) の配置や ICT 環境の整備により、国際化や情報化社会に対応できる人づくりを進めています。
- ・子どもたちの学校生活を支援する支援員や相談員の配置、課題を抱えた子どもたちを支援する専門職の配置、いじめ防止対策の強化などにより、安心して通うことができる学校づくりに取り組んでいます。
- ・児童生徒数が減少する中においても、小中学校における教育環境の向上を図るため、宇陀市学校適正化基本方針の策定に向けた検討を進めています。
- ・市内の学校施設 (小学校 6 校、中学校 4 校、学校給食センター) は、文部科学省が長寿命化改修周期の目安とする築 40 年を経過している施設の割合が 45% となっており、施設の老朽化等が進んでいることから、効率的な学校施設の改修等を進めるため、学校施設長寿命化計画を策定しました。

#### (2) 課題

- ・自ら課題を発見し解決する探究的な学習を推進し、ふるさとの未来を創造する力と、自己の生き方について考える力を育てる必要があります。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、複数の情報から必要なものを取り出して説明したり、根拠を明確にして理由を述べたりする力をつける必要があります。

- ・子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、グローバル化や情報化が急速に進展しています。こうした中で、外国語教育や情報教育をはじめ、新しい時代に必要とされる資質や能力を育むことが必要です。
- ・年々増加傾向にある課題を抱えた子どもたちやその保護者を支援する支援員や相談員、専門職の配置の充実を図ることが必要です。
- ・学校や家庭での端末の利用におけるルールを明確にし、情報モラル教育の一層の充実を図り、安全かつ効果的に端末を活用できるようにすることが必要です。
- ・児童生徒がこれからの社会で生きる力を育むために必要な学校規模などの学習環境について、保護者をはじめとした市民の理解を深めることが必要です。
- ・学校施設長寿命化計画に基づき、学校施設の状況や将来の需要見通しを踏まえ、学校施設に求められる機能・性能を確保しつつ、効率的・効果的な事業手法の選択、予防保全的な維持管理、計画的な修繕や改修等を通じてライフサイクルコストの縮減を図り、併せて、中長期的な視点から財政負担の軽減・平準化を図ることが必要です。
- ・宇陀高校との連携協力を図り、高校の人的資源を市の活性化に生かしたり、市の人的・物的資源を高校の学びに生かすことにより、将来、宇陀市で活躍する人材を育成することが必要です。

### (3) 施策

#### ① 児童生徒の「よりよく生きる力」を育てます

- ・スクールカウンセラーや専門の指導員による教育相談の機会を設け、個別の状況に応じた心理的ケア等適切な指導や学習の機会を設定し、子どもの発達や不登校児童生徒の生きる力を高めるなど、自立を支援します。
- ・これからの時代に対応する力を育むために、市内4中学校に ALT を配置し、「使える」外国語教育の充実を図り、国際的視野を広めるとともに、プログラミング的思考やプログラミングに対する知識・技能を学習や身近な生活に生かすことができるよう、子どもたちの情報活用能力の向上に取り組みます。

#### ② 児童生徒の教育環境を整えます

- ・学校施設長寿命化計画に基づいて、子どもたちが健やかに成長できるよう、安全で安心な学校給食を提供するために老朽化している学校給食センターの建替えを行ないます。
- ・大宇陀中学校校舎のバリアフリー化改修、中学校屋内運動場の LED 化や便所改修等を行い、学習環境の改善を図ります。
- ・子どもの学びの連続性を踏まえた就学前教育及び小・中学校の連携による一貫教育や、子どもの多様な見方・考え方を育むための学校規模の適正化、GIGA スクール構想に基づく ICT 環境の整備など時代の変化に対応した最適な教育環境の充実に努めます。

#### (4) 関連する計画

- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市学校教育の基本方針
- いじめ防止基本方針
- 学校施設長寿命化計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性4-3

### 多様な学びの場の整備・充実



#### (1) 現状

- ・市美術展などを通して、人材育成と文化振興を図っています。
- ・図書館の蔵書の充実を図るとともに、市民一人ひとりが、本と身近に親しめるよう、おはなし会や講座を開催しています。また、電子図書館の開設や図書消毒機の導入など、コロナ禍での読書環境の整備に努めています。
- ・市民が「いつでも」「どこでも」「誰でも」学ぶことができ、学びを通じて得た成果が、まちづくり・人づくりにつながる生涯学習を推進します。
- ・中央公民館と地域の分館では、生涯学習講座、定期講座、随時募集講座を開催し、生涯を通じた多様な学びの場を提供しています。
- ・大和富士ホールでは、市民の教育文化の向上と生涯教育の増進を図る施設として、大規模住宅地の中にあるということもあり、幅広い年齢層の市民から利用されています。
- ・携帯端末の普及により、人間関係の希薄化や心身の健康への影響、インターネットを悪用した問題行動の発生など、青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。

#### (2) 課題

- ・地域に根差した伝統や文化の継承と地域ぐるみの交流を進め、子どもたちのふるさとを思う心や人を思いやる心を引き続き育てる必要があります。
- ・市民の文化活動の底辺を拡大するために、文化芸術に触れる機会の充実が必要です。
- ・図書館は、乳幼児から高齢者まで、全ての市民が情報を入手し、文学や芸術を鑑賞できる場であり、市民の潤いある生活の場であることが必要です。
- ・家庭や地域、学校の連携による地域に根差した開かれた学校づくりを継続して実施する必要があります。
- ・インターネットを悪用した犯罪をはじめ、さまざまなトラブルに巻き込まれないよう、青少年健全育成の環境を整備する必要があります。
- ・市民一人ひとりが生きがいをもち、また、相互理解を深めながら子どもから大人までが心豊かな生活を送ることができるよう、さまざまな生涯学習活動や多世代間の交流を通じて、人とのつながりを育む機会を提供していくことが重要です。

- ・市民が求める様々なニーズに応えながら、心身ともに健康に、充実した生活を送ることができるよう、生涯学習を含めた多様な学びの機会を提供していく必要があります。
- ・生涯学習の拠点となる中央公民館等は、供用から45年以上が経過しており、建物を維持する修繕が困難となっています。

### (3) 施策

#### ① 生涯学習環境の充実に取り組みます

- ・市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進を実現するため、各種講座や教室を積極的に開催します。また、文化会館や各種スポーツ施設等については、中長期的な視点に立った維持・保全対策等を行うとともに、効率的な管理運営に取り組みます。
- ・図書館では、市民のニーズに即した図書の実充に努め、情報や知識を提供するとともに、読書会や講演会、展示会などを開催し、全ての市民の学びや交流の場となるよう努めます。
- ・中央公民館等は、その機能を維持し、移転についての検討を行い、生涯学習環境の充実に努めます。

#### ② 地域社会全体で子どもの育ちを支えます

- ・子どもの自立や協調性を高めるため、単位子ども会の活動やイベント開催、ボランティア活動等の実施を支援します。
- ・遊び体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに、豊かな感性を育むことができるよう、子どもフェスタ事業にも取り組み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図ります。
- ・青少年の健全な育成のための広報・啓発活動、有害環境浄化活動、見守り活動に取り組むとともに、地域社会力を活かし、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援し、子どもたちの学習補助や体験学習等を行うことで「地域と共にある学校づくり」を進めます。

### (4) 関連する計画

- 子ども読書活動推進計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画
- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市生涯学習振興指針

## 施策の方向性4-4

### スポーツ・芸術・文化の振興



#### (1) 現状

- ・スポーツ・芸術・文化は、市民の生きがいや健康づくりにつながり、市民生活を豊かにするとともに、活動を通じて地域コミュニティの形成にも貢献します。
- ・働き方改革の進展により働く人たちの意識やライフスタイルが変化し、スポーツに対するニーズがさらに多様化することが予想されます。
- ・本市は、文化会館・公民館など、文化・芸術にふれられる環境が整っていると同時に、各地域のスポーツ施設などでは、市民団体などによるさまざまな活動が行われています。
- ・近年では、フィットネスブームなどの健康づくりへの取り組みが注目される中、団体のみならず個人でのスポーツや運動に取り組む気運がますます高まっています。
- ・東京パラリンピックを契機として、障がい者への理解が一層進み、障がい者が身近な地域においてスポーツに親しむことができる社会の実現に向けて、障がい者スポーツの普及促進が求められています。

#### (2) 課題

- ・市民のスポーツを通じた健康づくりを進めるため、より多くの市民に参加してもらえる事業の実施が必要です。
- ・障がいのある人となない人が、一緒にスポーツを楽しむことのできる共生社会を実現する必要があります。
- ・スポーツによる交流人口を拡大し、地域を活性化する必要があります。
- ・市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるように、施設や設備の適正な維持管理に努める必要があります。
- ・市民に誇りと喜び、夢と感動を与えるため、スポーツ競技力の向上を図る必要があります。
- ・持続的なスポーツ発展のため、市民やスポーツ団体の現状やニーズを把握し、的確な支援を行う必要があります。
- ・今後も市民一人ひとりが生きがいをもち、また、相互理解を深めながら子どもから大人までが心豊かな生活を送ることができるよう、さまざまな生涯学習活動や多世代間の交流を通じて、人とのつながりを育む機会を提供していくことが重要です。

- ・また、市民の学習ニーズの高度化・多様化にも対応していく必要があります。
- ・各施設では老朽化が進んでいるため、その設備更新、施設の機能向上や長寿命化を行い、照明のLED化などの省エネルギー化を進めるとともに、だれもが使いやすい施設とするためのユニバーサルデザイン化を行う必要があります。
- ・市民主体の文化活動への支援を行うとともに、文化や芸術にふれることができる機会の充実やスポーツ施設の活用を図る必要があります。
- ・健康寿命の延伸に向けた運動の習慣化への支援や、子どもから高齢者までそれぞれの体力、年齢、目的に応じたスポーツ活動が進められるよう、地域との連携のもと、スポーツに親しめる機械の充実や指導者の養成を図る必要があります。
- ・障がいのある方もない方もともに参加できるスポーツの振興に取り組む共生社会の実現を目指す必要があります。

### (3) 施策

#### ① スポーツ活動の充実に取り組みます

- ・地域住民により自主的・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブの育成に取り組み、地域住民のスポーツの参加機会や地域住民間の交流を推進します。
- ・宇陀市の豊かな自然の中で心身の健康維持に寄与する市民スポーツ大会や宇陀市駅伝チャレンジ大会、市民マラソン大会を開催し、市内外から参加者を集うことでスポーツを通じた心身の健康づくりとともに宇陀市のPRにつなげます。
- ・生涯スポーツ、競技スポーツ、スポーツツーリズムを推進することで、市勢の発展につなげていきます。
- ・スポーツ施設等個別施設計画に基づく計画的な管理運営を行い、その費用の分散をはかりま
- す。
- ・高原文化都市としての有利な地理条件を生かした市民の健康づくりを推進します。
- ・各地域の施設を活用し、市民のスポーツ・芸術・文化活動を推進します。
- ・だれもがスポーツ施設等を気軽に利用できる環境づくりに努めます。

#### ② 4-4-2 芸術・文化の振興を図ります

- ・絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設けた市美術展覧会を開催し、美術を愛する市民の創作活動の成果を発表する場の提供や鑑賞による創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成など、心豊かな人間形成につなげます。
- ・文化会館においては、芸術・文化振興の拠点施設として大規模改修を実施して環境整備を行い芸術、文化に関する鑑賞機会の充実を図っていきます。



#### (4) 関連する計画

- 県と市のまちづくり連携協定
- 宇陀市生涯学習振興指針
- 宇陀市障がい者計画
- 宇陀市教育大綱
- 宇陀市スポーツ施設等個別施設計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 目指すまちの姿 自然豊かなまち

### “自然豊かなまち”を実現するための「施策の方向性」

5-1 豊かな自然環境の保全・活用

5-2 生活環境の整備・充実

5-3 公園・緑地の整備・活用

### “自然豊かなまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方等
宇陀川のBOD <sup>※</sup> (高倉橋観測所)	0.7mg/l (2015年)	0.6mg/l	【市内の河川の水質の維持・改善】 自然環境を保全する取組みによって、宇陀川の美しい環境の維持及び更なる美化につながると考えられます。
市民1人あたりの ゴミ排出量	0.27t/年 (2017年度)	0.25t/年	【市民1人あたりのゴミ排出量の削減】 循環型社会の実現に向けた取組みや自然環境を保全・活用する取組みの推進が、市民の方々が排出するゴミの削減につながると考えられます。

※BOD(Biochemical Oxygen Demand)は生物化学的酸素要求量といって、最も一般的な水質指標のひとつです。水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものであり、一般に、BODの値が大きいほど、その水質は悪いと言えます。

## 施策の方向性5-1

### 豊かな自然環境の保全・活用



#### (1) 現状

- ・本市は豊かな自然に囲まれ、美しい山々ときれいな空気、水が生み出す風景が大きな強みとなっています。また、貴重な動植物も多く生息・生育しています。市内の河川には特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息しており、植物では環境省レッドリストの準絶滅危惧種に指定されているカザグルマの自生地や本市を自生南限地とするスズランの群落があり、保護活動や生育環境の保全活動に取り組んできました。
- ・公害防止のための監視体制を強化していますが、不法投棄が後を絶ちません。

#### (2) 課題

- ・特別天然記念物オオサンショウウオの生育環境保全のため、幅広い世代を対象とした学習機会の創出や行事の開催などが必要です。
- ・オオサンショウウオ・カザグルマ・スズランが生息できる水環境を保全していく必要があります。
- ・草刈りや清掃活動への若い世代の参加意識を高めるとともに、環境美化活動について啓発する必要があります。
- ・不法投棄に対し継続して対策をとる必要があります
- ・森林整備を進める必要があります。
- ・林業従事者の確保や育成と、さらなる造林コストの低減のため、先進技術による林業の効率化を図り、若者や女性に魅力ある産業にする必要があります。
- ・農林業の振興と森林の保全を図るため、地域産業の振興に取り組む必要があります。
- ・宇陀市の強みである自然環境を守り、引き継いでいくために、森林や里山環境を積極的に保全していく取り組みが必要です。

### (3) 施策

#### ① 豊かで美しい自然環境を保全・活用します

- ・里山の環境維持や再生事業、向淵スズラン群生地 of 保全対策、特別天然記念物であるオオサンショウウオの保護を推進します。
- ・豊かな自然環境の保全を推進するため、市民による市内清掃美化運動の実施や廃棄物の不法投棄等への対策を講じることで宇陀市の自然環境保全に取り組みます

### (4) 関連する計画

- スズラン保存管理計画
- カザグルマ保存管理計画
- 特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針(県教委)
- 宇陀市森林整備計画
- 公共建築物における宇陀市産木材利用推進方針
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性5-2

### 生活環境の整備・充実



#### (1) 現状

- ・地球温暖化や生物多様性の維持をはじめとするさまざまな環境問題に直面する中、持続可能な社会の実現に向けての取組みが求められています。
- ・プラスチック資源循環戦略に基づく脱プラスチックの取組みなどにより、さらなる廃棄物排出抑制が求められています。
- ・本市では、これまでにごみの減量化や資源化を通じた循環型社会の構築に取り組んでおり、水質保全や公衆衛生の向上に取り組むことで、快適な生活環境づくりをめざしてきました。

#### (2) 課題

- ・本市の可燃ごみを焼却している、宇陀クリーンセンターと東宇陀クリーンセンターは老朽化が進んでおり、今後の安定的なごみ処理の確保は大きな課題です。
- ・昨今では脱炭素社会実現の動きが活発化しており、本市でも自然環境と調和した再生可能エネルギーの導入や二酸化炭素の排出削減を推進する必要があります。
- ・市民のリサイクル意識の向上を図る必要があります。
- ・今後も引き続き、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進していくことが求められています。
- ・快適な生活環境を守り、引き継いでいくために、ハード・ソフトの両面から生活衛生環境の向上を図る必要があります。

### (3) 施策

#### ① ごみ処理施設の整備と循環型社会を推進します

- ・ごみ処理施設の整備を進めるとともに、ごみの減量と意識の高揚を図るための啓発活動や補助による支援を通じて、本市におけるリサイクルを推進やごみの減量化を図ります。
- ・循環型社会の実現に向けた取り組みとして、太陽光発電・電気自動車などのクリーンエネルギーの利用を推進します。そのほか、脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一つとして、各家庭への生ごみ処理機の設置費用を助成し、廃棄物の総量削減を推進します。

#### ② 生活衛生環境の向上を図ります

- ・し尿や生活排水を処理する施設を単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ更新することで、水質保全や公衆衛生の向上等を図ります。
- ・し尿処理や狂犬病予防注射、野良猫対策をはじめとして、快適な生活衛生環境の向上に努めていきます。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性5-3

### 公園・緑地の整備・活用



#### (1) 現状

- ・自然にあふれた公園や緑地は人々の心に潤いを与えるとともに、交流やにぎわいの拠点となる場所ですが、施設の老朽化が進行しています。
- ・コロナ禍で屋内での行動制限が求められる中、公園等のオープンスペースを利用したスポーツやレクリエーション等を楽しむ人々が増えたことに伴い、山上公園芸術の森や平成榛原子供のもり公園の来園者数が増加しています。

#### (2) 課題

- ・公園や緑地空間を良好な状態に保ちつつ、より一層よいものとしていくため、公園・緑地の維持管理や効果的な活用を検討する必要があります。
- ・市民の憩いの場としてだけでなく、スポーツを通じた健康づくりやまちづくりを実現するための場としての公園整備が求められています。
- ・利用者に親んでもらえるよう、より安全に、快適に利用してもらえるよう、公園や公園周辺の施設を整備する必要があります。

### (3) 施策

#### ① 快適に利用できる公園・緑地空間を提供します

- ・ワールドメープルパーク以外にも、平成榛原子供のもり公園などの公園運営において、民間活  
力の導入を模索し、より魅力的な公園・緑地空間の提供に取り組めます。
- ・公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化また更新が必要な公園施設については更新を推進  
するとともに、スポーツの交流を通じたまちづくり、安全・快適なスポーツ活動拠点とした公園整  
備を行います。
- ・山上公園芸術の森の来園者数増加に伴い、北ゲートの駐車場不足により発生する渋滞対策と  
して、新たな駐車場整備を推進します。

### (4) 関連する計画

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 公園施設長寿命化計画
- 県と市のまちづくり連携協定
- 緑の基本計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画



## 目指すまちの姿 地域力を発揮するまち

### “地域力を発揮するまち”を実現するための「施策の方向性」

- 6-1 市民と行政の協働のまちづくり
- 6-2 健全な行政運営の推進
- 6-3 広域行政の推進
- 6-4 地域力の再生・強化

### “地域力を発揮するまち”の評価指標

評価指標	現状値	目標値(2029年)	評価指標の考え方等
まちづくり協議会による取組件数	245件 (2017年度)	300件	【地域が主体となったまちの活性化】 市民と行政の協働のまちづくりや地域力の再生・強化に向けた取組みを進めることで、まちづくり協議会の主体的な取組みが増加すると考えられます。
市やまちづくり協議会のSNSのフォロワー数	1,044件 (2017年度)	10,000件	【情報共有の促進】 市等が積極的に情報発信や市民との情報共有を行うことによって、SNSのフォロワー数が増加することが考えられます。
経常収支比率	99.3% (2017年度)	95.0%	【経常収支比率(財政の弾力性)の改善】 市民と行政が適切な役割分担のもとでまちづくりを進めることによって、行政の財務負担の軽減につながり、経常収支比率の改善につながると考えられます。

## 施策の方向性6-1

### 市民と行政の協働のまちづくり



#### (1) 現状

- ・ICT（情報通信技術）の進展により社会全体がデジタル化し、社会や経済、生活が大きく変化しつつあります。また、市民の行政に対するニーズは多様化し続けています。
- ・ホームページやフェイスブックなどを活用し、情報を発信することにより、情報の共有と市内外に向けた情報発信の充実が図られています。

#### (2) 課題

- ・市民の視点で市民が必要とする新鮮で魅力ある情報や市民生活に役立つ情報を迅速に発信するとともに、情報を一方的に発信するのではなく、市民の意見を市政に反映する必要があります。
- ・ICT（情報通信技術）の進展により社会全体がデジタル化する中で、多様化する市民ニーズに的確に応えるために、ICT等の技術を活かした多様な情報発信にも努めていく必要があります。

### (3) 施策

#### ① 情報発信の充実を図ります

- ・宇陀市役所として、各施策・各事業などの説明責任を果たすため、常に最新の情報を市のホームページや広報誌「広報うだ」への掲載と、宇陀市自主放送「うだチャンネル」やSNS等を活用することで市民との情報共有を図ります。
- ・市民や民間事業者が利活用できるオープンデータの提供に取り組み、行政の高度化・効率化を推進します

#### ② 市民協働のまちづくりを進めます

- ・市内の隅々から声の届く市民参加型の行政を目指し、市民と市長などが直接意見交換を行い、開かれた市政の実現に取り組みます。
- ・自治会やまちづくり協議会などの市民団体と協働するまちづくり体制を構築します

### (4) 関連する計画

- 宇陀市地域情報化計画
- 宇陀市観光基本計画
- 新市まちづくり計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性6-2

### 健全な行政運営の推進



#### (1) 現状

- ・市税をはじめとする自主財源の確保が難しく、地方交付税や国県支出金などへの依存度が高い状況にあります。
- ・国においては、各自治体が独自に構築している住民基本台帳などの自治体システムを標準化する動きがあります。
- ・公共施設やインフラ資産の老朽化が進み、更新の時期を迎える施設などが増加しています。
- ・国において、「書面、押印、対面」を原則とした制度等の抜本的見直しや情報通信政策の一元化が進められており、デジタル化を加速する動きがあります。
- ・国はマイナンバーの利活用を促進しており、宇陀市においても申請方法の周知や窓口の拡充により積極的にマイナンバーカードの普及を進めています。
- ・市税などのコンビニ収納や窓口手数料などのキャッシュレス決済の導入を進めています。

#### (2) 課題

- ・人口減少や新型コロナウイルス感染症による影響で税収の減少が見込まれる中、健全な行財政基盤を維持し、市民が安心して住み続けられる行政経営を行っていくために、財源の確保と経費の縮減が必要です。
- ・限られた職員数と財源で行政サービスを維持し、多様な行政需要に対応するためには、デジタル技術などを活用し、業務の効率化を図る必要があります。
- ・行政組織としての機能を十分に発揮するため、職員一人一人の意識改革と資質の向上を図る必要があります。
- ・公共施設やインフラ資産の老朽化に伴う不具合の増加や事故発生のリスクに対し、適切な対応が必要であるとともに、公共施設などのあり方を検討していく必要があります。
- ・市が保有する土地や建物などの財産について、今後の必要性を十分に精査する必要があります。
- ・各種手続きの電子申請システムへの登録や利用を進めるためには、セキュリティの確保や個人情報の保護に留意するとともに、利用者の視点に立った利便性の向上に一層取り組む必要があります。

- ・庁内に導入された各種の事務システムについて、市民手続きの利便性向上や経費の縮減、業務の改善といった効果を上げる必要があります。
- ・マイナンバーカードの利活用による市民の利便性向上に取り組む必要があります。
- ・電子申請などの利用を促進するとともに、市民サービスの向上につなげるために、職員にはデジタルスキルの向上と、市民に対して分かりやすく丁寧な説明を行うことが求められます。

### (3) 施策

#### ① わかりやすく丁寧な行政サービスを提供します

- ・市役所内での DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進に努め、市民の立場にたった行政サービスの実現に向け、行政手続のオンライン化を進め、書かない窓口、ワンストップ窓口の実現に向けた業務改善に取り組みます。

#### ② 新たな時代に対応できる行政運営を行います

- ・本格的な人口減少を迎えても、持続可能な行政サービスを提供していくために、AI (人工知能) や RPA (業務の自動化) など ICT を活用した業務改革を推進し、市民サービスの向上に努めます。
- ・社会情勢の変化に対応できる組織体制を構築するとともに、業務上発生しうるリスクに対し組織的な管理を徹底するリスクマネジメントの強化や情報セキュリティ対策の強化に取り組みます。また、災害やコロナウイルス感染症対策の徹底など災害時等においても業務が継続できる環境の整備に取り組みます。

#### ③ 持続可能な財政運営を行います

- ・将来にわたって安定的な財政運営を行うため、歳出の見直し、財源の確保など、持続可能な財政運営に努めるとともに、公共施設の統合・廃止・長寿命化など、財産の有効活用、適正管理と民間ノウハウを活かした有効活用を図ります。ただし、令和 7 年度までの間を重点施策への戦略的投資期間に位置付け施策の推進を図ります。
- ・市が保有する土地や建物などの財産のあり方を検討し、必要に応じて環境の整備を行い、適正な管理運営に取り組みます。

#### (4) 関連する計画

- 第4次行政改革大綱
- 宇陀市公共施設等総合管理計画
- 宇陀市地域情報化計画
- 宇陀市行政改革大綱及び実施計画
- 宇陀市の補助金の適正化に関する方針
- 宇陀市立地適正化計画
- 土地利用計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性6-3

### 広域行政の推進



#### (1) 現状

- ・人口減少下の状況においては、多様化するニーズへの対応や地域の活性化・賑わい創出に単独の自治体のみで対応することは困難になりつつあります。
- ・近隣市町村が連携して、観光や介護などの分野で共同して事務を行っています。

#### (2) 課題

- ・現状の問題に対応するためには、自治体間の連携によるサービスの提供や人材のスキルアップなど、より広域での連携が重要となっています。

#### (3) 施策

##### ① 広域行政を推進します

- ・桜井市、宇陀市、曾爾村、御杖村による広域行政を行うことにより、構成市村による相互協力のもと、市民サービスの向上、地域振興事業を推進します。
- ・姉妹都市又は友好都市として提携し、文化、スポーツ、教育、経済、防災等の各分野において本市と他の都市とが友好的な交流や相互的な行政サービスの向上を推進します。
- ・広域的な課題に対し、国や県、広域行政圏、関係市町村と連携・協調を図りながら行政運営に取り組みます。

#### (4) 関連する計画

- 宇陀市観光基本計画
- 宇陀市過疎地域自立促進計画

## 施策の方向性6-4

### 地域力の再生・強化



#### (1) 現状

- ・市内各地区で、住民主体の地域運営や地域づくり活動が行われており、地域の課題解決に向けた新たな取り組みが見られます。
- ・少子化・高齢化や核家族化の進行、生活スタイルや価値観の多様化などにより、地域の課題も多様化しています。
- ・自治会やまちづくり協議会などにおいては、担い手の減少や高齢化などにより活動力が低下しています。

#### (2) 課題

- ・人口減少や少子化・高齢化により、社会奉仕作業や伝統行事などの地域活動の継続が困難な状況が増加しているため、地域の活動や仕組みを検討する必要があります。
- ・市民自らが地域の実情や課題を認識し、活動する市民を掘り起こすことが課題です。
- ・本市の持続的な発展を支えていくためには市民らと行政の協働が不可欠です。また、地域のにぎわいの創出や活性化を支える、地域の担い手となる人材を育成することも重要です。
- ・市民をはじめとして、本市のまちづくりに携わり、応援してくれるサポーターを増やしながらか地域全体で連携し、まちづくりを推進していく必要があります。

#### (3) 施策

##### ① 市民のまちづくり活動を支援します

- ・地域活動へ補助金を交付することで、地域の賑わい創出や活性化を支援します。
- ・自治会の健全な育成と円滑な運営を支援し、自治意識の向上を図ります。
- ・市内団体と諸外国との友好的交流を支援し、互いの文化への理解の深まりやグローバルな人間関係の形成などを推進します



#### (4) 関連する計画

- 宇陀市過疎地域自立促進計画